平成 25年度

F　D 活 動 報 告 書

南九州大学 FD 推進委員会

1. はじめに

平成21年に南九州大学FD推進委員会が発足し、本格的なFD活動がスタートいたしました。そして平成25年度末にて5年間活動を行ってきたことになります。

この5年という節目を迎えるまでの間、大学教員をはじめ関係教職員の皆様方にご協力・ご支援を賜りながら種々の事業を実施することができております。FDの事業の数も年々増え、平成25年度は7事業を実施することができ、ますます充実してきております。

しかしながら、まだ各事業について改善すべき点がいくつか存在し、さらに充実させるための検討も必要です。平成26年度以降の南九州大学のFD活動がさらに充実・発展させるために本報告書は、平成25年度内で行った種々のFD活動事業をふりかえり、内省も含めて詳細に報告させていただきたいと思います。

次年度以降のFD推進委員会を中心として、その他大学・学園の各種関係機関・部署・部門が本報告書を参考にされ、南九州大学のFD活動の充実・発展、ひいては大学・学園の充実・発展のために役立てていただければ幸いでございます。

最後に、平成25年度の本学のFD活動にご理解をいただき、またさまざまな実施事業にご参加いただいた教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。また本報告書の作成をご担当いただいた各学科・センター・事務局の教職員の方々には多大なご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

平成25年度南九州大学FD推進委員会

委員長 若宮 邦彦

平成25年度南九州大学FD推進委員会メンバー

境園芸学科	管理栄養学科	食品健康学科	子ども教育学科	教養・教職センター
菅野 教授	竹之山 准教授	山田 教授	黒川 教授	スモール 講師
新谷 准教授	甲斐 准教授	中瀬 准教授	若宮 講師	

事務局（宮崎）	事務局（都城）
上野 部長	金丸 部長
赤木 課長	村社 次長
金森 課長	猪股 係長
黒木 課長	甲斐 主任
奥野 主任	

2. FD 推進委員会開催報告

南九州大学では、FD 活動を進めていくにあたり、「FD 推進委員会」を組織し、当該委員会によって、FD 活動の事業の計画、実行などにあたっている。平成 24 年度中に開催された FD 推進委員会について以下に示す。

第 1 回: 平成 25 年 5 月 20 日開催

議案

(1) 平成 25 年度 FD 推進委員会委員長の選出

第 2 回: 平成 25 年 6 月 18 日開催

議案

(1) 平成 25 年度 FD 推進委員会事業計画について

(2) 平成 25 年度前期授業評価アンケートの実施について

(3) 平成 25 年度 FD 講演会の内容および時期の検討について

(4) 平成 25 年度新入生魅力度および卒業生満足度調査の実施について

第 3 回: 平成 25 年 7 月 16 日開催

議案

(1) 平成 25 年度南九州大学 FD 講演会の実施(案)

第 4 回: 平成 25 年 10 月 29 日開催

議案

(1) 平成 25 年度後期授業評価アンケートの実施(案)について

(2) 平成 25 年度後期参観授業の実施(案)について

(3) 南九州大学 FD 活動の情報公開の方法(案)

第 5 回: 平成 26 年 1 月 29 日開催

議案

(1) 平成 25 年度 FD 推進委員会事業計画について

(2) 平成 25 年度魅力度・満足度調査の結果(学科別)について

(3) 平成 25 年度後期授業評価アンケートの結果(学科・センター別)について

(4) 平成 25 年度後期参観授業の結果(学科・センター別)についてて

(5) 平成 25 年度 FD 情報公開について

(6) 平成 25 年度 FD 活動報告書のまとめ方について

3. FD 活動一覧

平成 25 年度に実施した南九州大学の FD 活動の一覧を以下に示す。詳細な報告内容については、あとのページで詳細を記述するので、ここでは概要のみ報告する。

事業【1】 授業評価アンケートの実施（前期・後期とも）

教育目的の達成状況を点検・評価するとともに、教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として、例年と同様に継続して実施した。アンケートにおいては学生自身の受講姿勢、及び授業に対する次の5段階評価、の確認とともに自由意見欄を設け、授業の良い点、改善を求める点等を求めている。授業評価アンケートは集計後、結果は各教員に開示し、各教員は結果に基づく授業改善報告書を作成いただいた。また学科別にアンケート集計値を出し、学科別にも分析を行った。今回のアンケートで得られた各教員個人および学科の問題点・改善点は今後の教育活動に活用していく。

事業【2】 参観授業の実施（後期）

授業評価アンケートと同様に教員の教授法改善等を目的として毎年行ってきている。平成 25 年度は多くの先生方に参観いただくため、例年よりも開催期間を拡大し、参加促進を行った結果、前年度よりもよい結果を得ることができた。より多くの教職員方に参観いただくことはこの事業にとって重要であるので、今後さらなる改善が望まれる。

事業【3】 FD 講演会の実施

教員の FD 活動に対する理解および FD 活動の推進を目的として平成 22 年度から行ってきている。平成 25 年度は 1 回の講演会を実施した。富山大学 学生支援センター特命講師である桶谷文哲先生を講師としてお招きし、「発達障害のある大学生の理解と対応～富山大学アクセシビリティ・コミュニケーション支援室の取り組み～」という題目で講演をいただいた。多くの教職員の皆さま方に参加いただき、充実した講演会となった。

事業【4】 各学科独自の FD 活動の実施

各学科においても全学的な事業同様に、学科独自の特色ある FD 活動を本年度も活発に行った。

事業【5】 新入生魅力度評価アンケートおよび卒業生満足度評価アンケートの実施

本調査は、魅力ある大学づくりのための情報を収集するために本年度から実施した。本事業により様々な事項を知ることができたが、次年度以降は必要に応じてアンケート内容などで改善行っていく。本事業で出た結果は、各学科における教育活動および研究活動のみならず、広報活動にも利用でき、また学園の運営の方向性を示すための参考になるものと思われる。

事業【6】 FD 活動の情報公開の検討

他大学では、FD 活動をホームページ上や印刷物で紹介しており、「FD 活動の公開」が進んでいる。本学においても「FD 活動の公開」について検討し、大学ホームページ上で情報公開を行った。

事業【7】 FD 活動報告書（本報告書）の作成

平成 25 年度に行った FD 活動の詳細を記録するために実施した。報告書は事業の詳細のみならず、反省点も詳細に記録することで、次年度以降の FD 活動等に役立てていく。

4. 授業評価アンケート報告

平成 25 年度においても、教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として、前期および後期とも授業評価アンケートを実施した。
前期および後期の実施要領を以下に示す。

【前期授業評価アンケート実施要領】

目的

教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する。

対象

専任教員が担当する授業（原則 1 教員 1 授業）（2 授業以上も推奨：ただし 2 授業目以降のアンケートの集計は、各教員で行う）
＜非常勤のアンケート実施について＞
非常勤の先生については、希望者のみアンケート参加可能とする。

実施時期

7 月 11 日（木）～22 日（月）を原則とする。
（上記期間での実施が不可能な場合は多少前後しても問題ない）
（使用するアンケート表および授業改善報告書のフォーマット）
別に示す通り（様式①、②）

実施手順

①学生支援課より、各先生方へ＜実施する授業名＞＜アンケート実施時間（授業前・後）＞についての案内をする。各教員は学生支援課が指定する期日までに授業名・実施時間を回答する。
②学生支援課員は、事前に受講生分のアンケート用紙準備しておく。
③アンケート実施当日、学生支援課員はアンケート用紙を授業時間（授業開始後または終了前）に配付し、教員はアンケートの目的等について学生に説明を行う。説明後、教員は教室を退出する。
【教員が説明する内容】

- 目的説明⇒教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する
- その他説明⇒アンケートは無記名で回答、学生の成績評価とは無関係

④学生支援課員（都城 C は、学生支援課員が少数であるので、他部署事務部員も担当する）は、対象科目の授業時間（授業開始後または終了前）に待機し、アンケート終了後に回答用紙を回収する。
⑤アンケートは 7～8 月中に集計が行われる。学生支援課を通じて各教員へ報告が行われる。各教員は、集計結果・自由記述欄結果をもとに授業改善報告書を作成し、FD 推進委員長へ報告書を提出する。作成された授業改善報告書は、今年度後期および次年度前期の授業開始時に各教員へ返送され、各教員は授業の問題点を認識して、問題点を意識した授業を行ってもらうこととする。

その他

- 自由記述欄をフォーマットのままで実施する場合は、アンケート用紙は学生支援課で準備し、回収担当者が実施時間に持参する。
- 自由記述欄は学科や教員単位で設定可能とする。独自にオリジナルなものを作成する場合は、その旨を学生支援課にご連絡しておく。アンケート用紙は各自で印刷してもらう。（各学科あるいは各教員で特徴あるアンケートが実施できるよう、積極的に自由記述欄を活用いただきたい）
- 教員が担当する科目を全て行う場合は実施しても問題ないが、その科目の集計作業は実施する教員が行うこととする。

（アンケート結果の学生への公開について）
アンケート結果の学生への公開については、集計後に掲示板にて公開することとする。

前期授業評価に用いた各種様式
前期授業評価に用いた各種様式を次頁以降に示す。

後期授業評価アンケート実施要領
目的
教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する。

対象
専任教員が担当する授業（原則１教員１授業）（2 授業以上も推奨：ただし 2 授業目以降のアンケートの集計は、各教員で行う）
＜非常勤のアンケート実施について＞
非常勤については、希望者のみアンケート参加可能とする。（非常勤講師室内にて募集ポスター掲示）

実施時期
11 月 29 日（金）～12 月 5 日（木）を原則とする。
（上記期間での実施が不可能な場合は多少前後しても問題ない）
（使用するアンケート表および授業改善報告書のフォーマット）
別に示す通り（様式①、②、③）

実施手順
①学生支援課より、各先生方へ＜実施する授業名＞＜アンケート実施時間（授業前・後）＞についての案内をする。各教員は学生支援課が指定する期日までに授業名・実施時間を回答する。
②学生支援課員は、事前に受講生分のアンケート用紙準備しておく。
③アンケート実施当日、教員はアンケート用紙を授業時間（授業開始後または終了前）に配付し、アンケートの目的及び提出方法について学生に説明を行う。アンケートは無記名で回答させ、学生の成績評価とは無関係であることを説明しておく。
1．目的説明⇒教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として実施する

2. その他説明⇒アンケートは無記名で回答、学生の成績評価とは無関係
アンケートの実施中については、教員は教室から退出しておく。
④学生支援課員（都城 C は、学生支援課員が少数であるので、他部署事務部員も担当する）は、対象科目の授業時間（授業開始後または終了前）に待機し、アンケート終了後に回答用紙を回収する。
⑤アンケートは 12～1 月中に集計が行われる。学生支援課を通じて各教員へ報告が行われる。各教員は、集計結果・自由記述欄結果をもとに授業改善報告書を作成し、FD 推進委員長・学生支援課・へ報告書を提出する。作成された授業改善報告書は、次年度前期および後期の授業開始時に学生支援課より各教員へ返送され、各教員は授業の問題点を認識して、問題点を意識した授業を行ってもらうこととする。

その他

- 自由記述欄をフォーマットのままで実施する場合は、アンケート用紙は学生支援課で準備し、回収担当者が実施時間に持参する。
- 自由記述欄は学科や教員単位で設定可能とする。独自にオリジナルなものを作成する場合は、その旨を学生支援課にご連絡しておく。アンケート用紙は各自で印刷してもらう。（各学科あるいは各教員で特徴あるアンケートが実施できるよう、積極的に自由記述欄を活用いただきたい）
- 教員が担当する科目を全て行う場合は実施しても問題ないが、その科目の集計作業は実施する教員が行うこととする。

（アンケート結果の学生への公開について）
アンケート結果の学生への公開については、集計後に掲示板にて公開することとする。
（アンケートの集計）
外部委託による集計
アンケート結果の分析については、本学のユニークな学科構成を考慮して、学科・センター別に分析を行った。以下に学科・センター別に分析した結果を示す。

様式①－前期授業評価アンケートフォーマット

授業評価アンケート票

平成25年度前期（南九州大学FD推進委員会）

このアンケートは，個々の教員の授業改善を目的として実施するもので，皆さんの成績評価とは無関係です。
個々の意見は，教員が参考にさせていただき，今後の授業改善に活用させていただきますので，率直な回答をお願いします。

以下の設問に回答して下さい。回答は次の5段階評価により，回答欄の該当する番号に〇をつけて下さい。

回答番号	5	4	3	2	1
	特にそう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない

〇回答者所属学科・学年（　　学科　　学年）

設問番号	学生の授業取り組みに関する質問	回答欄				
①	私はこの授業によく出席した	5	4	3	2	1
②	私は授業内容について質問や発言をした	5	4	3	2	1
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）	5	4	3	2	1
	教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	5	4	3	2	1
⑤	教員の板書（またはPPT・配布資料等）は読みやすかった（見やすかった）	5	4	3	2	1
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	5	4	3	2	1
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	5	4	3	2	1
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	5	4	3	2	1
	総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	5	4	3	2	1
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役に立つと感じた	5	4	3	2	1
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	5	4	3	2	1

自由意見欄

（上記設問の回答で「1」および「2」を選択した場合は以下に選択した理由をできれば記入してください。）

（授業に関する意見がある人は自由に記入してください。）

※　教員あるいは学科単位で設問を自由に設定していただき，その回答を記述する形態としても構いません。

〇回答授業科目名（　　）

様式②ー前期授業改善報告書フォーマット

平成25年度前期授業改善報告書

教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿アンケート実施科目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

アンケート集計結果に対する自己分析および改善すべき点を記述して下さい（ご自身が平成24年度後期の「授業改善報告書」に記述した，“授業改善に向けた施策”を実行できたかどうかも含めて記述して下さい）。

今後平成25年度後期および平成26年度前期の授業に向けて，上記改善点を意識した次年度授業の，授業改善に向けた施策をできるだけ具体的に記述して下さい。

注意：本報告書は，平成25年度後期および平成26年度前期の授業開始時に各教員へお返しします。次年度の授業は上記内容を意識した授業運営をお願いいたします。

様式③－後期授業評価アンケートフォーマット

授業評価アンケート票

平成25年度後期（南九州大学FD推進委員会）

このアンケートは，個々の教員の授業改善を目的として実施するもので，皆さんの成績評価とは無関係です。
個々の意見は，教員が参考にさせていただき，今後の授業改善に活用させていただきますので，率直な回答をお願いします。

以下の設問に回答して下さい。回答は次の5段階評価により，回答欄の該当する番号に〇をつけて下さい。

回答番号	5	4	3	2	1
	特にそう思う	多少そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない

〇回答者所属学科・学年（　　学科　　学年）

設問番号	学生の授業取り組みに関する質問	回答欄				
①	私はこの授業によく出席した	5	4	3	2	1
②	私は授業内容について質問や発言をした	5	4	3	2	1
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）	5	4	3	2	1
	教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	5	4	3	2	1
⑤	教員の板書（またはPPT・配布資料等）は読みやすかった（見やすかった）	5	4	3	2	1
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	5	4	3	2	1
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	5	4	3	2	1
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	5	4	3	2	1
	総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	5	4	3	2	1
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役に立つと感じた	5	4	3	2	1
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	5	4	3	2	1

自由意見欄

（上記設問の回答で「1」および「2」を選択した場合は以下に選択した理由をできれば記入してください。）

（授業に関する意見がある人は自由に記入してください。）

※　教員あるいは学科単位で設問を自由に設定していただき，その回答を記述する形態としても構いません。

〇回答授業科目名（　　）

様式④－後期授業改善報告書フォーマット

平成25年度後期授業改善報告書

教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿アンケート実施科目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

アンケート集計結果に対する自己分析および改善すべき点を記述して下さい（ご自身が平成24年度後期および平成25年度前期の「授業改善報告書」に記述した，“授業改善に向けた施策”を実行できたかどうかも含めて記述して下さい）。

今後平成26年度前期および後期の授業に向けて，上記改善点を意識した次年度授業の，授業改善に向けた施策をできるだけ具体的に記述して下さい。

注意：本報告書は，平成26年度前期および後期の授業開始時に各教員へお返しします。次年度の授業は上記内容を意識した授業運営をお願いいたします。

アンケート結果の分析については，本学のユニークな学科構成を考慮して，学科・センター別に分析を行った。以下に学科・センター別に分析した結果を示す。

【環境園芸学科】

平成 25 年度環境園芸学科授業評価アンケート集計結果

表　アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

設問番号	H22年度		H23年度		H24年度		H25年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
①	4.48	4.38	4.37	4.24	4.28	4.24	4.37	4.29
②	2.67	2.81	2.66	3.05	2.79	2.95	2.82	2.69
③	3.19	3.32	3.23	3.44	3.35	3.45	3.46	3.34
④	4.08	4.21	4.05	4.18	4.18	4.18	4.19	4.05
⑤	3.82	3.97	3.94	4.10	4.02	4.02	3.98	3.97
⑥	4.25	4.33	4.26	4.35	4.40	4.32	4.42	4.40
⑦	3.98	4.14	3.99	4.21	4.11	4.15	4.11	4.08
⑧	4.30	4.40	4.36	4.37	4.40	4.40	4.44	4.33
⑨	3.56	3.76	3.65	3.85	3.78	3.83	3.84	3.75
⑩	3.86	3.99	3.98	4.04	4.06	4.05	4.11	3.98
⑪	3.77	3.97	3.90	4.03	4.01	4.01	4.02	3.93

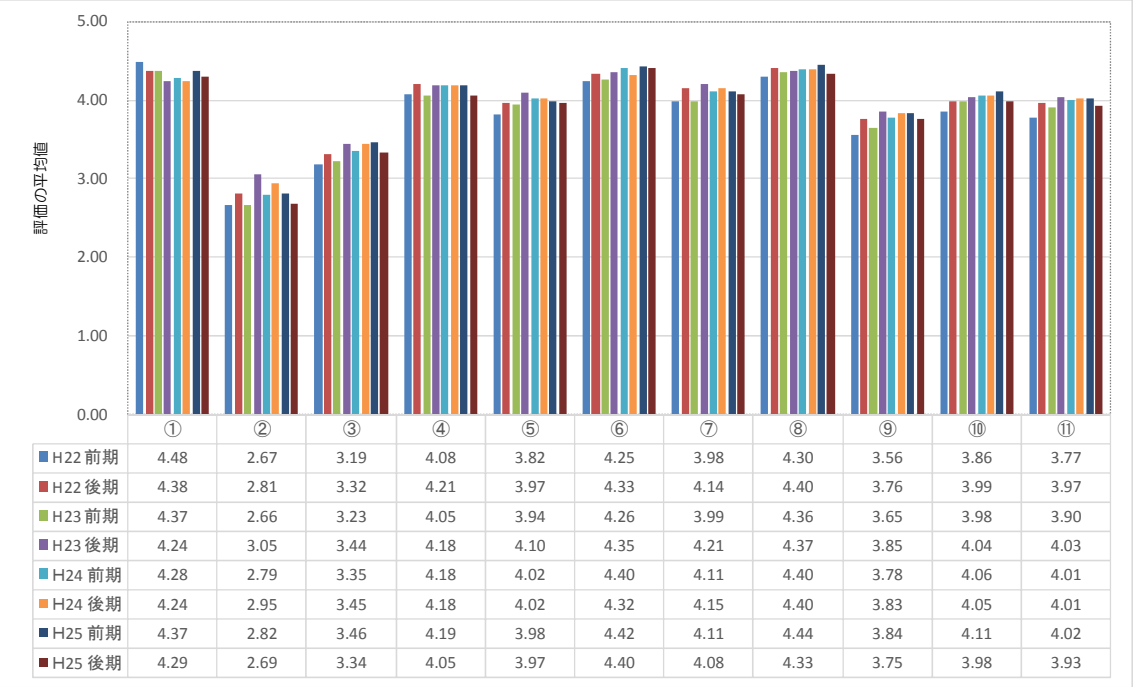


図　アンケート平均値の推移（環境園芸学科授業全体）

I. 平成 25 年度(前・後期)の環境園芸学科授業評価アンケート集計結果

1）全体について

・本年前期は昨年度後期の平均値と比して、ポイントは 11 項目中８項目で増、３項目で減となっているが、顕著な値の変化は見られない。これに対し、本年後期は前期と比較するとやはり大幅なポイントの変動はないが、11 項目中全項目においてポイント減となっている。このような事態は平成 22 年度後期と平成 23 年度前期の間でも起きているが、その原因は講義をする教員側にあるのか、受講学生側にあるのか、あるいは両者にあるのか、原因の有無も含めわからない状況にある。いずれにしても講義をする教員としてはこれまでの各自で記載した授業改善報告書を踏まえ、授業改善に取り組みたい。

2）各設問について

・設問 1. 前後期とも、平均値は 4 点台であるが、よく出席したとは考えていない、回答「１、２、３」の学生が 2 割程度（前期：17.8%、後期：20.3%）存在することに注視し、学生の取り組み姿勢の改善を図り、今後はこの値を下げるような取り組みが望まれる。

・設問2. 他の設問と比べ、依然としてポイントが低い。少人数でのゼミとは違い、受講生が多数の講義では、質問や発言しにくい、時間がないことなどもその要因として考えられる。講義終了後に質問される場合も多くみられることから、講義終了後の質問についても設問に記載しても良いと考える。

・設問3. 前期はこれまでの各期の結果の中では最も高いポイントなったが、後期はポイント減となっている。各期とも設問2に次いで低評価であり、回答の「３ どちらともいえない」を含めると半数以上（前期：52.0%、後期：55.7%）の学生が積極に取り組んでいないと回答している。各科目の位置づけを第一回目の講義や専攻説明会などを通じて明確にし、特色に合わせて自発的な参加意欲を高めるような具体的方策が望まれる。

・設問4. 前後期とも「１、２」つまり教員の声が聞き取り難いとの回答が 1 割を切り、前期は 4.9%と極めて低い値であった。マイクの使用や教室の変更などの各教員の対応により改善が図られたものと考えられる。各授業において学生に声が聞こえているかを確認することにより、より改善がなされるものと思われる。

・設問5. 前後期ともおよそ1割弱が「１、２」つまり教員の板書等は見づらいと回答している。プレゼンテーション方法や質の工夫など、各教員の対応で改善可能と思われる。

・設問6. 比較的授業時間は守られていると判断されている。継続が望まれる。

・設問7. 不満を抱いている学生は 10%以下で、概ね良好であると考えられる。現在の状況を維持しつつも、授業中、学生に意見を聞いたり、問いかけをしたりするなど学生の理解度や意見を吸い上げる工夫が望まれる。

・設問8. 各教員が熱意を持って授業に取り組んでいると判断される。継続が望まれる。

・設問9. 「５」つまり授業を非常によく理解できたと回答しているのは全体のおよそ 1/4 足らずで、「４」の多少理解できたと回答している学生よりも少ない。多くの学生が自信をもってよく理解できたとは言えない状況にある。設問2）および3）の結果を合わせ考えると、学生の取り組み姿勢といった根本的な課題とも考えられる。今後の継続的な分析と取り組みが望まれる。

・設問10. 「３」のどちらともいえない、を含めるとおよそ 1/3 の学生に将来役に立つと認識されていない。設問9）と同じく学生の取り組み姿勢についての課題もあると思われるが、科目の意義や位置づけ、特色の理解を深めることが改善に結びつくと思われる。

・設問11. 「５、４」と満足感を得られている解答した学生が約 7 割とおおむね良好と思われるが、「５」の割合は約 3 割であった。この評価は他の全設問を通した総合的な評価であり、多くの学生において絶対的な満足感が得られているわけではない。これまでの授業評価結果をもとに各教員は各設問項目を中心に改善を図っているが、

学生自信の授業に対する積極的な取組み（設問3））や理解度を向上させる（設問9））ことも総合評価の改善に結びつくと考えられる。各教員および学科の地道な改善努力の継続が重要であると考えられる。

【管理栄養学科】

＜平成 25 年度前期　授業評価アンケート　集計結果分析（管理栄養学科）＞

管理栄養学科については、昨年の授業評価アンケートの結果と比較しながら、反省点を分析した。

（アンケート集計結果（平均値）:（　）内は平成 24 年度前期結果）

設問 1）私はこの授業によく出席した　4.88（4.78）

設問 2）私は授業内容について質問や発言をした　3.11（2.81）

設問 3）私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）　3.71（3.38）

設問 4）教員の声は聞き取りやすかった　4.38（4.28）

設問 5）教員の板書（または PPT・配布資料等）は読みやすかった（見やすかった）4.14（3.87）

設問 6）教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた　4.70（4.55）

設問 7）教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた　4.24（4.03）

設問 8）教員は熱意を持って授業をしていた　4.49（4.38）

設問 9）私はこの授業内容を理解できた　4.10（3.69）

設問 10）私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役立つと感じた　4.59（4.44）

設問 11）私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた　4.32（4.10）

- 今回のアンケートの平均値としては、前回のアンケート集計結果（平成 24 年度前期）からは全ての設問項目において、平均値が上昇した。本学科の各教員一人ひとりが授業評価アンケートの結果をもとに、授業改善がなされた結果が出ていると考えられる。
-
- 設問2）や3）からは、学生の授業前後あるいは授業中の取組みは、とくに改善が認められ、0.3 ポイント以上の上昇が認められた。このことは、授業に対する学生の学習意識への導きが的確に行われていることと考えられる。
-
- 設問5）については 0.27 ポイントの上昇が認められ、教員の授業に対する取組みが上がり、授業の質も向上しているものと思われる。このことは設問4）、6）～8）についても同様のことが言えると思われる。
-
- これらの結果を踏まえ、設問9）が 0.4 ポイント以上上昇し、授業の理解度が上がり、十分な授業が行われていると考えられる。さらには設問 10）、11）では管理栄養士養成である本学科では、「将来役に立つ」と感じ、満足度も高いと状況となっている。
-
- **学科全体で反省点をまとめると今回のような良好な結果となっているが、本学科教員一人ひとりが自分自身の科目での結果を振り返り、反省点をしっかり意識した授業を行うことが大変重要である。とくに設問2）の点数が他より低いため、授業中の学生の質問できる環境作りに向けた対策が必要であると考えられる。**

＜平成 25 年度後期　授業評価アンケート　集計結果分析（管理栄養学科）＞

管理栄養学科については、昨年の授業評価アンケートの結果と比較しながら、反省点を分析した。

（アンケート集計結果（平均値）：（　）内は平成 24 年度前期結果）

設問 1）私はこの授業によく出席した　4.83（4.84）

設問 2）私は授業内容について質問や発言をした　3.01（3.33）

設問 3）私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）　3.54（3.74）

設問 4）教員の声は聞き取りやすかった　4.40（4.30）

設問 5）教員の板書（または PPT・配布資料等）は読みやすかった（見やすかった）4.27（3.98）

設問 6）教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた　4.64（4.55）

設問 7）教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた　4.36（4.20）

設問 8）教員は熱意を持って授業をしていた　4.52（4.45）

設問 9）私はこの授業内容を理解できた　4.08（4.08）

設問 10）私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役立つと感じた　4.62（4.53）

設問 11）私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた　4.36（4.27）

・　今回のアンケートの平均値としては、前回のアンケート集計結果（平成 24 年度後期）からは殆どの設問項目において、平均値が上昇した。本学科の各教員一人ひとりが授業評価アンケートの結果をもとに、授業改善がなされた結果が出ていると考えられる。多少平均値として下がった点もある為、後のように分析する。

・

・　設問１）の出席に関してはとても良いが、設問２）や３）の結果からは、多少下がっており、学生の授業前後あるいは授業中の取組みは、とくに改善が必要であり、02　ポイント以上の下降が認められた。このことは、さきの前期の結果はよかったものの、授業に対する学生の学習意識への導きの鈍化があるものと考えられる。

・

・　設問５）については約 0.3 ポイントの上昇が認められ、前期から比較しても 0.1 ポイント以上上昇しており、教員の授業に対する取組みが上がり、授業の質も向上しているものと思われる。このことは設問４）、６）、８）についても同様のことが言えると思われる。

・

・　これらの結果を踏まえ、設問９）は昨年後期から同等の値を推移しており、授業の理解度が上がり、十分な授業が行われていると考えられる。さらには設問 10）、11）では値の上昇あるいは高止まりとなり、管理栄養士養成である本学科では、「将来役に立つ」と感じ、満足度も高いと状況となっている。

・

・　**学科全体で反省点をまとめると今回のような良好な結果となっているが、昨年前期からするとその後期、本年度前期並びに後期と、本学科教員一人ひとりが自分自身の科目での結果を振り返り、反省点をしっかり意識した授業を行うことが大変重要である。とくに設問２）の点数が他より低いため、授業中の学生の質問できる環境作りに向けた対策が必要であると考えられる。**

【食品開発科学科】

＜＜前期＞＞

1．平成 25 年度前期　授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	醸造学	2	33
寺原典彦	食品学Ⅰ	2	28
中瀬昌之	食品加工学	2	31
金松澄雄	食糧生化学	2	9
紺谷靖英	代謝生化学	2	32
外山英男	発酵食品学	1	36
山田光子	薬理学	3	26
		合計	195

（参考）平成 24 年度前期　授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3	22
山田光子	薬理学	3	22
寺原典彦	食品基礎実験	1	27
外山英男	フードスペシャリスト論	1	29
紺谷靖英	微生物学	1	33
中瀬昌之	農産物利用学	3	23
		合計	156

（参考）平成 24 年度後期　授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
紺谷靖英	栄養学Ⅱ	3	23
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2	26
黒木英浩	食品企業論	3	7
柏田雅徳	食品製造学	2	25
寺原典彦	食品分析学	1	27
外山英男	生物学Ⅱ	1	30
山田光子	生理学	1	29
金松澄雄	ニュートリゲノ３ミクス	3	20
		合計	187

2. 平成 25 年度前期　アンケート結果

	回答欄					回答数	平均値	
設問番号	5	4	3	2	1	（人）		
①	136	34	19	6	0	195	4.54	
②	21	41	79	31	21	193	3.05	無効回答2
③	41	45	80	23	5	194	3.48	未回答1
④	84	77	28	3	3	195	4.21	
⑤	76	60	38	16	4	194	3.97	無効回答1
⑥	129	50	13	2	0	194	4.58	未回答1
⑦	97	63	32	2	1	195	4.30	
⑧	110	68	16	1	0	195	4.47	
⑨	39	97	48	8	3	195	3.83	
⑩	69	91	31	0	4	195	4.13	
⑪	60	98	30	4	3	195	4.07	

各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。
平均値 4.54 で概ね良好である。一方、回答番号 3 以下の割合が約 13%存在する。引き続き学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心に対応していく。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。
平均値 3.05 で、これまでの授業評価アンケートの結果と同様に、設問中最も低い。しかし、従来よりも改善傾向にある。各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けて努力した成果が表れている。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）。
平均値が 3.48 で従来よりも上昇している。しかし、回答番号 2 以下が 14%いることに対しては対策を講じるべきである。大半の学生には自学自習の習慣が身に付いてきたと考えられる。

設問 4･5･6･7･8 は教員の授業実施方法に関する質問である。
平均値が 3.97－4.58 と概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、従来の平均値をほぼ維持している。設問 5「教員の板書は見やすかった」に関しては、従来と比較して低下し（3.97）、設問番号 1 及び 2 の回答数が増加した（全体の約 10%）。これは、昨年度のアンケート実施時とは異なる授業科目及び担当者を対象としたためと考えられる。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。
平均値が 3.83 と従来とほぼ同様の良好な結果であった。しかしながら、回答番号 3 以下の回答が約 30%見られた。授業レベルを落とさずに学生の理解度を増すための教員側の努力が必要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。
平均値 4.13 であり、従来とほぼ同等の、概ね良好な結果であった。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

設問 11. 満足度
平均値が 4.07 で従来とほぼ同様の良好な結果であった。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

＜＜後期＞＞
1. 平成 25 年度後期　授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
食品製造学	柏田雅徳	2	26
食品分析学	寺原典彦	1	35
食品学Ⅱ	中瀬昌之	2	67
生物化学Ⅱ	金松澄雄	1	33
栄養学Ⅱ	紺谷靖英	3	28
生物学Ⅱ	外山英男	1	33
生理学	山田光子	1	40
		合計	262

（参考）平成 24 年度前期　授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
柏田雅徳	食品開発実習Ⅱ	3	22
山田光子	薬理学	3	22
寺原典彦	食品基礎実験	1	27
外山英男	フードスペシャリスト論	1	29
紺谷靖英	微生物学	1	33
中瀬昌之	農産物利用学	3	23
		合計	156

（参考）平成 24 年度後期　授業評価アンケート実施科目

教員名	科目名	学年	回答者数
紺谷靖英	栄養学Ⅱ	3	23
中瀬昌之	食品学Ⅱ	2	26
黒木英浩	食品企業論	3	7
柏田雅徳	食品製造学	2	25
寺原典彦	食品分析学	1	27
外山英男	生物学Ⅱ	1	30
山田光子	生理学	1	29
金松澄雄	ニュートリゲノミクス	3	20
		合計	187

2. 平成 25 年度後期　アンケート結果

	回答欄					回答数	平均値	
設問番号	5	4	3	2	1	（人）		
①	192	40	24	5	1	262	4.59	
②	20	60	106	49	27	262	2.99	
③	32	87	92	40	10	262	3.34	(未回答 1)
④	131	89	35	3	2	262	4.29	
⑤	113	90	40	17	2	262	4.13	
⑥	171	68	20	3		262	4.55	
⑦	135	81	41	3	2	262	4.31	(未回答 2)
⑧	142	88	28	2	1	262	4.39	
⑨	55	114	69	19	5	262	3.74	
⑩	105	94	52	6	5	262	4.10	
⑪	86	97	67	9	3	262	3.97	

各学期のアンケート結果

設問 1. 私はこの授業によく出席した。

平均値 4.59（23 年度後期 4.55, 24 年度前期 4.68）で概ね良好である。一方、回答番号 3 以下の割合が約 11%存在する。引き続き学科教員間で学生の出欠状況の情報共有を行い、早い段階で怠学者の抽出を行い、指導教員を中心に対応していく。

設問 2. 私は授業内容について質問や発言をした。
平均値 2.99 で、これまでの授業評価アンケートの結果と同様に、設問中最も低い。24 年度前期には平均値が 3 を上回り改善傾向が見られていたが、今回はほぼ同様の結果となった。理由としては、①アンケート実施を講義科目のみに限定したことにより、学生の発言の機会が少なかったこと、②対象教員数が増加したこと、などが挙げられる。各教員が質問可能な時間帯を設けたり、学生が自主的に質問しやすい雰囲気作りをしたりするなど双方向性の授業形態に向けて努力していく。

設問 3. 私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）。
平均値が 3.34 で 24 年度前期(3.64)を少し下回った。特に、回答番号 2 以下の割合が約 20%となっており、設問 2 と同様の理由が考えられる。より多くの学生に自学自習の習慣を身に付けさせるための具体的な指導を今後行う。

設問 4・5・6・7・8 は教員の授業実施方法に関する質問である。
平均値が 4.13－4.55 と概ね良好であり、同一科目が対象ではないが、これまでの平均値をほぼ維持している。設問 5「教員の板書は見やすかった」に関しては、これまでかなり高い平均値が得られていたが（平均値 4.30）、回答番号 1 及び 2 の回答が約 7%あり、授業科目によっては改善が必要なケースがある。

設問 9. 私はこの授業内容を理解できた。
平均値が 3.74 とこれまでの平均値（3.9 前後）と比較し僅かに低下した。回答番号 3 以下の回答が約 35%となっており、授業科目によっては学生にとって理解が困難な内容があることがうかがえる。そのため、授業レベルを落とさずに学生の理解度を増すための教員側の努力が必要である。

設問 10. 将来役に立つと感じた。
平均値 4.10 であり、これまでの平均値（4.0－4.1）とほぼ同様である。学生の立場から見て、学科で設定している科目群及び授業内容は概ね適切であると考えられる。

設問 11. 満足度
平均値が 3.97 でこれまでの平均値（4.0－4.1）より若干低下したものの、授業内容は概ね適切であると考えられる。学生の立場から見て、授業満足度が上がるように更なる努力が必要である。

【子ども教育学科】

アンケート集計結果

【前期：実施教員15名　回答数602名】

【後期：実施教員13名　回答数685名

：1年345名　2年175名　3年57名　4年8名　未記載100名】

■表1　全項目（①~⑪）の平均値の年度・前後期データ

（数字は、学科教員の平均値）

設問番号	質　問　内　容	2013後期	2013前期	2012後期	2012前期
学生の授業取り組みに関する質問					
①	私はこの授業によく出席した	4.61	4.62	4.61	4.62
②	私は授業内容について質問や発言をした	2.88	3.08	3.46	3.22
③	私はこの科目に積極的に取り組んだ（予習や復習をした）	3.51	3.69	3.84	3.69
教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	4.13	4.20	4.21	4.12
⑤	教員の板書(または PPT・配布資料等)は読みやすかった(見やすかった)	3.77	3.97	4.16	3.85
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろうとしていた	4.32	4.43	4.42	4.40
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を進めていた	4.02	4.18	4.24	4.03
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	4.44	4.52	4.50	4.40
総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	3.84	4.00	4.16	3.97
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかのかたちで将来役に立つと感じた	4.16	4.41	4.48	4.38
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が得られた	3.98	4.23	4.29	4.21

■表2　各項目の「特にそう思う」「多少そう思う」の占める割合　（%）

設問番号	質　問　内　容	2013後期	2013前期	2012後期	2012前期
学生の授業取り組みに関する質問					
①	私はこの授業によく出席した	90	94	92	92
②	私は授業内容について質問や発言をした	27	35	48	38

③	私はこの科目に積極的に取り組んだ （予習や復習をした）	48	59	67	60
教員の授業実施方法に関する質問					
④	教員の声は聞き取りやすかった	76	78	77	76
⑤	教員の板書（または PPT・配布資料等） は読みやすかった（見やすかった）	61	69	76	64
⑥	教員は授業の開始・終了の時刻を守ろう としていた	82	85	84	87
⑦	教員は学生の反応を確かめながら授業を 進めていた	70	76	78	71
⑧	教員は熱意を持って授業をしていた	86	89	89	86
総合的評価					
⑨	私はこの授業内容を理解できた	66	74	80	74
⑩	私はこの授業で学んだ内容はなんらかの かたちで将来役に立つと感じた	78	87	88	86
⑪	私は総合的に判断してこの授業で満足が 得られた	70	81	82	83

アンケート結果の分析

【全体的分析】

表１に示すように、学科教員の平均値が4ポイント以上の項目が、前期では8項目、後期では6項目あり、総じて授業評価はほぼ良好、ととらえていいように思われる。

次に、表2に示す「特にそう思う」「多少そう思う」の占める割合についてみてみると、80％台以上の項目が、前期は前年度も今年度も共に5項目であるが、後期は前年度6項目だったのが今年度は3項目に減少している。また後期、5割を割っている項目が2項目（②「質問や発言」27％、③「予習や復習」48％）存在する。更に、前期に比べ後期の値は全項目ダウンしている。これは表１についても同様である。後期がなぜ後退しているのか、その要因を分析する必要があろう。後期の回答者数が前期に比べ83名多くなっていることが関係しているのかどうか？あるいは、学年別の回答者数に前期と後期で変動があり、それが関係しているのかどうか？

いずれにせよ、学生の授業への参加度を示す項目といえる②「質問や発言」、③「予習や復習」の低さを見る時、学生が能動的に参加する・参加したくなる授業のあり方を工夫していく必要があるように思われる。

以下は前期、後期それぞれについての個別的分析である。

【前期について】

●表1から見えてくること

2012年度前期と比較する時、「教員の授業実施方法」（④～⑧）、「総合的評価」（⑨～⑪）の全項目について、平均値がアップしている。総じて、授業改善の成果と言えよう。

●表2から見えてくること

2012年度前期に比べ、5ポイント以上アップしている項目は⑤「板書」、⑦「反応を確かめながら授業」の２項目である。改善がはかられつつあることが推測される。

【後期について】

●表1から見えてくること

2012年度後期と比較する時、平均値が0.3ポイント以上ダウンしているのは、②③⑤と共に「総合的評価」の⑨⑩⑪である。2013年度前期との比較では、平均値が0.2ポイント以上ダウンしているのは、②⑤と共に「総合的評価」の⑩⑪である。総合的評価に関わる授業改善のあり方を探る必要があるように思われる。

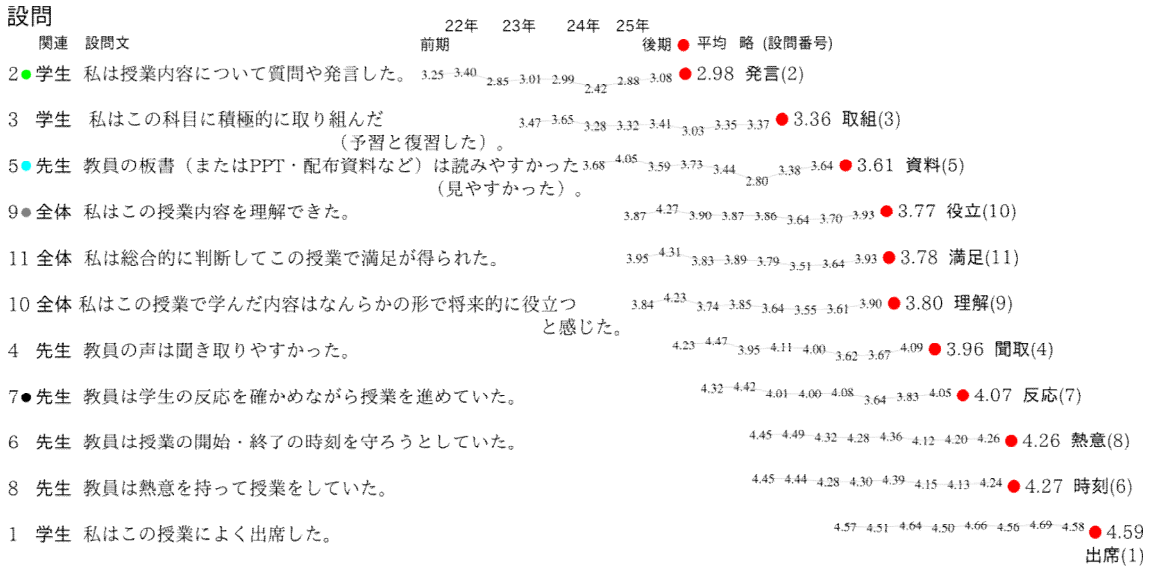
●表2から見えてくること

「特にそう思う」「多少そう思う」の占める割合が特に低いのは②「質問や発言」、③「予習や復習」であるが（これについては全体的分析で取り上げている）、⑤「板書」、⑨「理解」も6割台と低くなっている。上記表1のところで触れたことと考え合わせると、特に⑨「授業内容を理解できた」をどう改善するかがポイントの一つとなるのではないだろうか。

【教養・教職センター】

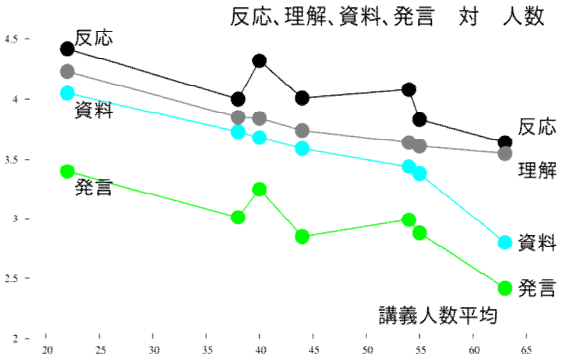
＜＜前期および後期＞＞

設問文と 22 年前期から 25 年後期までの結果、平均の結果の差が見える赤点と平均の数字を低い順で並んでいる。教員の授業実施方法に関する質問の中で一番低いのが 3 番目の「教員の板書(または PPT 配布資料など)は読みやすかった(見やすかった)」である。それで話し合いで情報デザインなど資料作りをまたは選びを取り上げる。この報告も「インクとデータの比率」(Ink-to-Data Ratio)と「情報密度」(Information Density)の理念を取り入たつもりである。

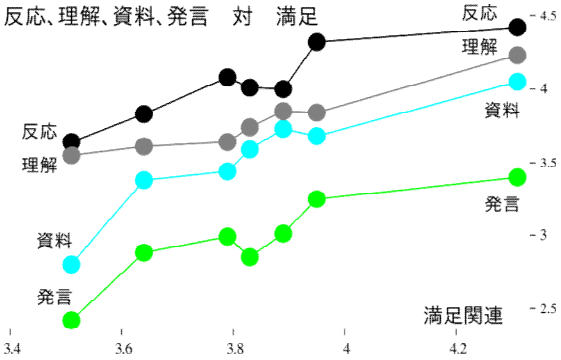


資料を考える根拠

平均人数を計算するのに必要なデータは 25 年前期までしかないが 7 学期分を見ると人数が増えると結果が下がるように見える。結果の低い質問で一番人数関連がありそうな四つプロット(plot)した。「資料」が一番相関があるようにみえる。同じ科目を「満足」に対したプロットを生成しても、「資料」の相関が見える。そして「理解」の変化と両方(人数と満足)の関係が「資料」の流れと似ている。

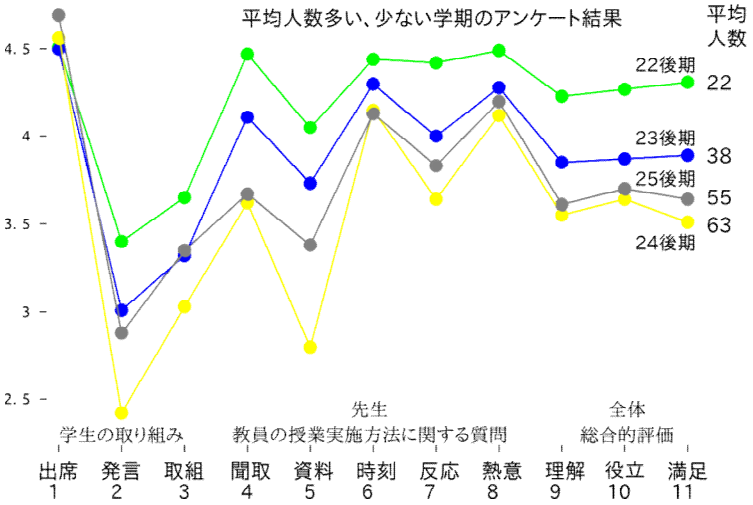


設問 2●(発言)、5●(資料)、7●(反応)、と 9●(理解)の結果を講義平均人数に対したのグラフを見ると「人数」と「資料」●(質問５)が一番相関してるように見える。「理解」●(質問９)よりも人数が増えれば増えるほど「資料」●(板書、PPT配布資料などの読みやすさ見やすさ)の結果が下がる。



設問 2●(発言)、5●(資料)、7●(反応)、と 9●(理解)の結果を満足に対したグラフを見るとまた「満足」と「資料」●が一番相関してるように見える。「資料」と「理解」●の満足に対した流れが似ている。資料の差が大きいので教材選択と資料作成に注意したいと思う。

平均人数の多いと少ない学期のアンケート結果比較



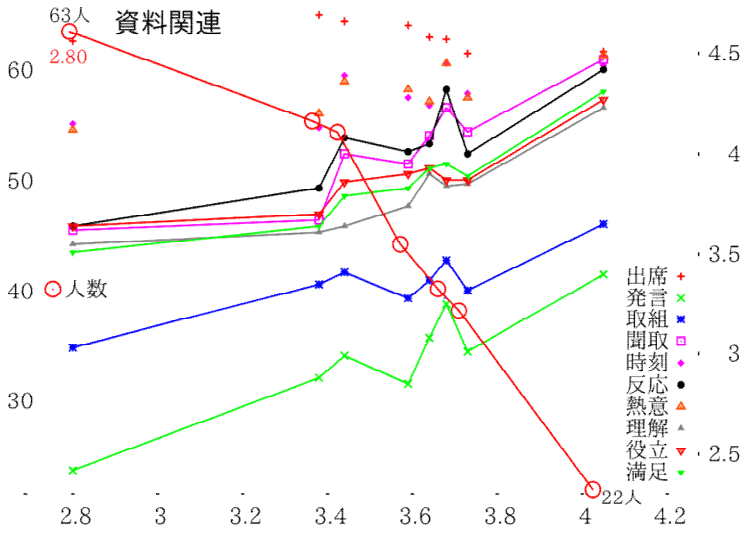
平均人数の多い学期●●と人数が比較的少ない学期●●の結果を比較するために七期のうち四つの学期結果をグラフにした。設問５、資料関連、の差が大きい。「教員の授業実施方法に関する質問」の中で一番低い。教員として、またはFD委員の一人として「情報デザイン」に注目し始めた。

一番低い結果は設問２、「学生の授業取り組みに関する質問」の発言関連関連で講義の人数、学生の期待とその他構造的なことに影響されるだろう。

１１問の質問の内、「教員の授業実施方法」関連の設問７、反応の確認、と「総合的評価」の設問９、理解関連、と設問１１、満足関連に集中したいと思う。

設問をみて注目しやすい分野として設問５、資料関連だ。教員としてすぐ教材選定と資料開発の場合に取り組める。

資料関連



x軸は資料「5.教員の板書（またはPPT・配布資料など）は読みやすかった（見やすかった）」の結果。出席+(1), 時刻◆(6), 熱意△(8)の結果は変りがあまりなくて相関が見えない。平均人数○が多くなると資料結果(2.80)が教員実施関連質問では非常に低い。資料に対して「理解」▲(9) 役立▼(10) 満足▼(11)は同じような動きを見せる。環境園芸の魅力調査の「教育研究に対する設問」の16問の14問は「70%以上の学生が魅力を感じている」と分析したのに58%の学生しか「教養教育科目」の魅力を感じていない。教育機関の大学として、または教養を目的としたセンターとして理解▲を目的にするべきけど、資料のことで満足▼と役立▼の結果tにも影響を与えることできるであろう。

アンケート結果データ

授業評価アンケートのデータ

年期	出席	発言	取組	聞取	資料	時刻	反応	熱意	理解	役立	満足	先生	学生	平均
22前	4.57	3.25	3.47	4.23	3.68	4.45	4.32	4.45	3.84	3.87	3.95	6	238	40
22後	4.51	3.40	3.65	4.47	4.05	4.44	4.42	4.49	4.23	4.27	4.31	9	197	22
23前	4.64	2.85	3.28	3.95	3.59	4.28	4.01	4.32	3.74	3.90	3.83	9	394	44
23後	4.50	3.01	3.32	4.11	3.73	4.30	4.00	4.28	3.85	3.87	3.89	16	616	38
24前	4.66	2.99	3.41	4.00	3.44	4.39	4.08	4.36	3.64	3.86	3.79	10	545	54
24後	4.56	2.42	3.03	3.62	2.80	4.15	3.64	4.12	3.55	3.64	3.51	4	253	63
25前	4.69	2.88	3.35	3.67	3.38	4.13	3.83	4.20	3.61	3.70	3.64	8	437	55
25後	4.58	3.08	3.37	4.09	3.64	4.24	4.05	4.26	3.90	3.93	3.93		222	

データ視覚化分野と教員の姿勢　学習者がついていけない場合は資料提供が問題ではないか

″A striking and often overlooked finding in this [Data Visualization] work is the fact that the group of participants without technical training, “mostly ordinary housewives” as Cleveland describes them, performed just as well as the group of mostly men with substantial technical training and experience. This finding provides evidence for something that I've long suspected: that visualizations make it easier for people lacking quantitative experience to understand your results, serving to level the playing field.　If you want your findings to be broadly accessible, it's probably better to present a visualization rather than a bunch of numbers.　It also suggests that if someone is having trouble interpreting your visualizations, it's probably your fault.″ Solomon Messing (参考ウェブサイト 2)

5. 後期参観授業報告

平成 25 年度においても、教員の授業の教授法改善等を目的として、後期に参観授業を実施した。
実施要領を以下に示す。

後期参観授業実施要領

目的

教員の授業の教授法改善等を目的として実施する。

対象授業

環境園芸学科、管理栄養学科、食品開発学科、子ども教育学科、教養教職センター所属の専任教員が担当する授業のうち、参観を希望する教員の授業（各学科 2 授業以上（ただし構成員の少ない教・教センターは 1 授業以上））

対象の授業一覧

対象教員所属	対象教員	対象授業	対象授業日時	対象授業教室
環境園芸学科	山口 健一 先生	環境保全園芸論	12 月 16 日（月）2 限	都:2101 教室
	平岡 直樹 先生	都市計画論	12 月 13 日（金）1 限	都:1205 教室
	新谷 喜紀 先生	動物分類学	12 月 11 日（水）1 限	都:2101 教室
管理栄養学科	小川 恒夫 先生	からだと疾病Ⅱ	12 月 12 日（木）15:50～17:20	宮:3202 教室
	朝見 祐也 先生	給食経営管理論実習Ⅰ	1 月 14 日（火）9:00～11:35	宮:1106 教室
食品開発科学科	外山 英男 先生	フードスペシャリスト論	12 月 5 日（木）5 限	宮:1411 教室
	金松 澄雄 先生	生物化学Ⅱ	12 月 11 日（水）1 限	宮:1411 教室
山田 光子 先生	生理学	12 月 12 日（木）3 限	宮:1308 教室	
子ども教育学科	遠藤 晃 先生	子どもと自然	12 月 11 日（水）1 限	都:2102 教室
	矢口 裕康 先生	保育内容指導法（言葉）	12 月 11 日（水）2 限	都:2101 教室
教養・教職センター	西村 盛正 先生	体育実技	12 月 13 日（金）4 限	都:体育館

※ 対象となった授業への参加は所属の学科・キャンパスを問わず参加できるものとする。
また事務職員、短大教員も参加可能として、広く公開する。

実施手順

- 実施期間内にて対象授業の参観を実施する。
- 参観者は教室内で対象授業の参観を行い、参観レポート（添付資料）を記入する。（当該レポートの

様式は、後日メールにて配布する。参観を希望する教員は自身で印刷して参観に参加する。（印刷されたものも、後日配布予定の当該事業のチラシに添付する予定にしている））

- 参観は業務等の関係もあるので教員への参加強制はしないが、できるだけ多くの教員に参加してもらう。
- 参観レポートは参観授業対象の先生へ提出する。

後期参観授業に用いた様式

後期参観授業の結果の詳細については、本学のユニークな学科構成を考慮して、学科・センター別に以下に結果を示す。

様式①ー参観レポート

平成 25 年度後期参観授業

参観レポート

授業を参観して参考になった点等をお書きください

対象教員に対して何かご意見がありましたらお書きください

後期参観授業の結果の詳細については，本学のユニークな学科構成を考慮して，学科・センター別に以下に結果を示す。

【環境園芸学科】

参観授業として3授業開催した。参加者数は各授業４名と極めて少なかった。これまでの参観授業への参加者からは有意義な刺激を受けたとの印象が伝えられていたが、参加者が少なく貴重な FD の機会が活かされていない。参観の機会を促すため開催数を増やすことも考えられる。

表　平成 24 年度 環境園芸学科参観授業と参加者数

担当教員名	参観授業名	実施日時	参加人数
山口 健一	環境保全園芸論	12 月 9 日(月)2 時間目	2 名
新谷 喜紀	動物分類学	12 月 11 日(水)1 時間目	1 名
平岡 直樹	都市計画論	12 月 13 日(金)1 時間目	1 名

【管理栄養学科】

（対象授業）

授業①：小川恒夫教授 12 月 12 日(木)4 限 宮崎 C-3202 教室 からだと疾病Ⅱ

授業②：朝見祐也准教授 1 月 14 日(火)1 限 宮崎 C-1109 教室 給食経営管理論実習Ⅰ

（参観者）

授業①：無し

授業②：無し

（課題）

・ 昨年まで管理栄養学科では、参観者が 1 授業につき数名あったが、今回は全く参加がなかった。

・ 教授会・学科会議等での周知は出来ているが、さらに学科内での参加促進を図る必要があると考える。

・ 参観をする授業の時間について、多くの参加者が見込める時間設定、つまり 5 限等への時間の変更も必要になるかもしれない。

【食品健康学科】

(1)対象授業

3名の教員が担当する下記科目を授業参観対象科目として実施した。

日時	授業科目	担当教員	参観者	
12 月 5 日(木) 5 講時	フードスペシャリスト論	外山	1 名	食品開発科学科　寺原教授
12 月 11 日(水) 1 講時	生物化学Ⅱ	金松	3 名	学生支援課　斉藤課員他
12 月 12 日(木) 3 講時	生理学	山田	2 名	短大　横堀准教授 企画広報課　黒木(弥)課員

(2)参観結果

上表の通り、参観者は対象3科目で延べ６名であった。学科内で参観授業の実施について何度か通知したに

もかかわらず、これまでと同様に参観者が少ない結果となった。他教員の授業を参観することに対する教員の意識の低さは前年同様変化していないようである。授業参観は、授業実施教員の改善につながる可能性のみではなく、参観者にとっても、自身の授業改善に対する意識を必要に応じて高めることにもつながると考えられる。今後は、参観義務化の必要性の有無を検討することも選択肢の一つであろう。

【子ども教育学科】

本学科では、2013 年 12 月 11 日（水）、下記のように2名の教員による参観授業が実施された。

① 1限目　遠藤　晃　准教授 「子どもと自然」　　参観者5名

② 2限目　矢口裕康　教授　「保育内容指導法(言葉)」 参観者7名

学生の興味・関心を引く内容構成の工夫がなされており、参考になるものであった。

【教養・教職センター】

12月13日(金)西村盛正先生の教育実施: 参観者は一人、教養教職センターの FD 委員会委員のスモール、ブライアン。（他の先生はキャンパス移動などあって参加できなかった）。

6. FD 講演会報告

FD 推進委員会では、平成 22 年度から大学教員の FD 活動に対する理解および FD 活動の推進を目的に FD 講演会を実施してきている。平成 25 年度も 1 回の実施があり、多くの教職員が参加し充実した講演会となった。講演会の概要およびアンケートの結果について以下に記録しておく。

- **日時:**平成 25 年 9 月 24 日(火) 14:00～16:00
- **会場:**宮崎キャンパス 2 階 会議室/都城キャンパス 1 階多目的会議室テレビ会議システムにて実施
- **講演テーマ:**「発達障害のある大学生への理解と対応」～富山大学アクセシビリティ・コミュニケーション支援室の取り組み～
- **講師:**桶谷 文哲 先生 (富山大学 学生支援センター 特命講師)
- **参加人数:**40 人【宮崎キャンパス 19 人／都城キャンパス 30 人】

「気になる学生」という言葉が大学内でも普遍化している。また、「発達障害」についても多くのメディアで取り上げられるようになってきている。発達障害とは◇自閉症スペクトラム障害(ASD)(Autism Spectrum Disorder)自閉性障害、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害。◇注意欠如・多動性障害(ADHD)(Attention Deficit /Hyperactivity Disorder)。◇ 学習障害(LD) (Learning Disabilities) 、発達性協調運動障害(DCD)(Developmental Coordination Disorder)等に大別される。

その概念を理解するポイントとしては1. 先天的な脳機能の障害(育てられ方が原因ではない)。2. 独特な思考や行動の特性により、生活に支障がでることが問題。3. 周囲から見てすぐに気付かないことが多い(見えない障害)。4. 本人には発達障害による特性だと自覚することは難しい。5. 周囲の理解と関わり方によって問題が解消することも多い。6. 医学的な診断基準はあるが、教育や相談・支援の現場では、エピソードや状態像から特性や支援ニーズなどの判断(見立て)を行うことが多い。等があげられる。2005 年 4 月に制定された「発達障害者支援法」において大学及び高等専門学校が、発達障害者に適切な教育上の配慮を行うことを定められた。また、2013 年 6 月に障害者差別解消法が制定され、3 年後の施行後は教育機関における合理的配慮の提供が義務付けられる。

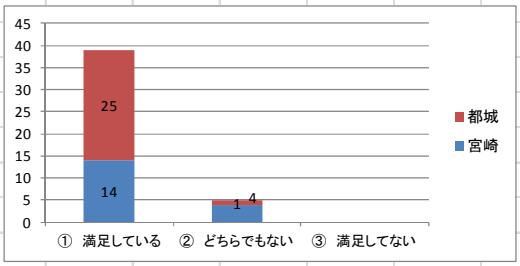
この講演では、講師の桶谷先生より、すべての学生の「社会的コミュニケーションの問題や困難さ」に焦点を当てた支援を「包括的(トータル)」に実践している富山大学アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 トータルコミュニケーション支援部門の実践事例を通じ、発達障害の特性を正しく理解するとともに合理的教育上の配慮を学生支援に反映し、有効な支援体制の構築を検討していくにあたって数多くの示唆をいただいた。

平成25年度　南九州大学FD講演会アンケート　集計結果

参加人数	49人（参加場所：宮崎19人・都城30人）
アンケート回収	44枚（宮崎18枚・都城26枚）

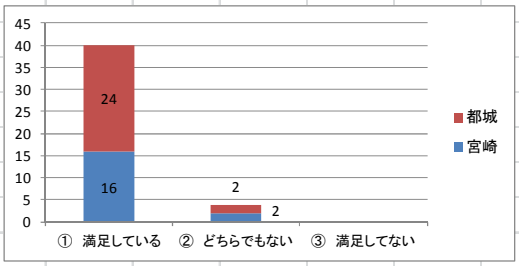
〈質問1〉 本講演を聴講し，満足しましたか？

	宮崎	都城	合計
① 満足している	14	25	39
② どちらでもない	4	1	5
③ 満足してない			



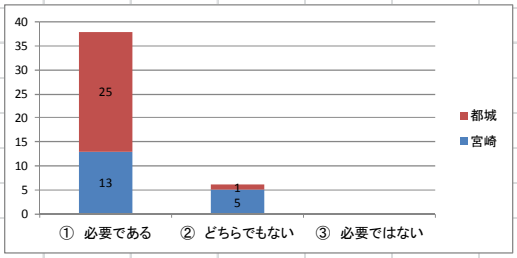
〈質問2〉 本講演の内容は，理解できましたか？

	宮崎	都城	合計
① 満足している	16	24	40
② どちらでもない	2	2	4
③ 満足してない			



〈質問3〉 本講演のような，FD活動に関する講演は，今後も必要だと思いますか？

	宮崎	都城	合計
① 必要である	13	25	38
② どちらでもない	5	1	6
③ 必要ではない			



〈質問4〉 今回のようなFD講演会を今後も開催するとすれば，どのような次期でどのような内容を，期待されますか？

時期
＊冬、9月下旬は会議が多すぎる
＊夏休み等学生の長期休業中。
＊この時期で良い。(同意見他8名)
＊8月～9月、9月後半。
＊夏休み、春休み、冬休み

内容
＊教員の資質向上に役立つ内容。
＊社会貢献(地域連携)。
＊教育方法。(低学力学生への支援)・(学生の人間力育成)・(教え方の工夫)
＊時間の大切さについて。
＊教職協働について。
＊学生支援に関わる内容。
＊合理的配慮について。発達障害のチーム支援について

〈質問5〉 その他，ご意見・感想がございましたら，お書きください。

＊ぜひ本学でも支援システムの構築を！。(宮崎C)
＊講演+質疑で90分以内が適切。(宮崎C)

＊もう少し質疑の時間があったらよかった。計4名
＊講義内容は難しかったが、事例で分かりやすかった。

7. 魅力度・満足度調査

この「新入生魅力度調査・卒業生満足度調査」は平成 23 年度から準備に取りかかり、平成 24 年度からの新規事業としてスタートした。
まずは実施の実施要領を以下に示す。

平成 25 年度新入生魅力度調査および卒業生満足度調査の実施要領

目的

本調査は、魅力ある大学づくりのための情報を収集するために実施する。新入生対象の調査では、本学のどのような点に魅力を感じ入学してくるのか、卒業生対象の調査では、本学のどのような点で満足を感じ（あるいは不満を感じ）卒業していくか、をアンケートにより調査する。本事業で出た結果は、各学科における教育活動および研究活動のみならず、広報活動にも利用でき、また学園の運営の方向性を示すための参考になる。

実施時期

新入生魅力度調査： 7 月中
卒業生満足度調査： 11 月中
（アンケート配布・回収は各学科 FD 推進委員を中心に担当）

集計作業

- 集計作業は外部委託とする。
- 授業評価アンケートと同様に学科別の集計結果を出す。学科会議等で結果を分析し、結果から見えてくる課題を抽出し、課題の改善策を検討する。
- 4 年後には魅力度と満足度とのギャップを集計し、上記同様に学科単位で問題点抽出と課題解決策を検討する。

アンケートの内容

＊＊注意＊＊

教育研究に関する設問の⑥番以降の設問については学科別設問とする。 以下に管理栄養学科以外の学科の設問を示す（魅力度調査の設問を示す。満足度調査の場合は「魅力を感じていますか」が「満足しましたか」になる。なお、食品開発科学科の満足度調査では学科名が「食品健康学科」となる。）。

アンケート結果の分析については、本学のユニークな学科構成を考慮して、学科・センター別に分析を行った。以下に学科・センター別に分析した結果を示す。

アンケート内容および結果は次項以降に示す。

＜新入生魅力度調査様式：子ども教育学科版＞

平成 25 年度新入生魅力度調査アンケート

南九州大学 FD 推進委員会

新入生のみなさん。南九州大学へのご入学おめでとうございます。南九州大学では，よりよい魅力ある大学づくりのため，新入生のみなさんに「魅力度調査」のお願いをしております。以下の設問に回答いただき，よりよい魅力ある大学づくりのご協力をお願いいたします。

設問の回答はすべて 5 択式になっています。該当する選択肢の番号に〇印をつけて回答して下さい。

【教育研究に対する設問】

① あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

② あなたは南九州大学の「創造性に富み，人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

③ あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的，応用的研究をすすめ，専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

④ あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ，あるいは優れた現場経験をもつなど，高い能力をもった教員による教育を受けることができる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑤ あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑥ あなたは，「人の育ちと地域の育ちを支援する専門家」を育てるという子ども教育学科の方針にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑦ あなたは，子ども教育学科の4年生大学ならではの実践的で充実したカリキュラムのもと，保育士資格，幼稚園教諭一種免許，小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許の四つの資格・免許を取得できることにどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑧ あなたは，子ども教育学科の小学校・幼稚園とつながって，恒常的に現場で学ぶことができる連携学校園方式を採用している点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑨ あなたは，子ども教育学科が掲げる「子どもの心身」「地域と子ども」「自然環境」という学びの 3 つの特色にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑩ あなたは，子ども教育学科の4年間の学びを教員がきめ細かにサポートする，ホーム制や1年次後期から始まる少人数のゼミについてどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑪ ⑥あなたは，子ども教育学科のボランティア活動など，実践的に地域活動へ参加し，子どもとの関わりや地域との関わりを学ぶ「子ども支援地域活動」という独自の科目にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑫ あなたは，子ども教育学科の学生一人ひとりの学習意欲の向上や科目履修計画作成に役立つようにGPA制度という成績評価システムを採用し，年間表彰も行っている点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑬ あなたは，子ども教育学科の脈絡なく単位をとることなく，しっかり学習ができるよう年間取得単位を制限するCAP制を導入していることにどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑭ あなたは，子ども教育学科が「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」という，学外に開かれた3つの活動拠点を有している点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑮ あなたは，子ども教育学科の「夢を叶える塾」での就職試験対策など，手厚い進路サポートがあることにどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

【就職支援に対する質問】

① あなたは南九州大学の「“就職課”があり，当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

② あなた南九州大学の「将来の進路に関してのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

③ あなたは南九州大学の「地元へのＵターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

【学習・生活支援に対する質問】

① あなたは南九州大学の「“学生支援課”があり当該課の専門スタッフが学習支援（各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等）をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり，学生の学習支援に役立っている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

③ あなたは南九州大学の「“保健室・学生相談室”があり，当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談，大学生活に関しての悩み相談をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

④ あなたは南九州大学の「“生協売店・生協食堂”があり，学生生活の支援充実をはかってくれている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑥ あなたは南九州大学の「課外活動（部活動，学友会，学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり，学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

【施設・設備に対する質問】

① あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室（フィールドセンターを含む）が整備されている」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

② あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内 LAN の充実，情報処理室の充実等）」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

③ あなたは南九州大学の「清潔で機能的で，また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

④ あなたは南九州大学の「通学に関して，スクールバスの運行や広い駐車・駐輪場を有しており，通学に便利である」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑤ あなたは南九州大学の「体育館・グランドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑥ あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

＜卒業生満足度調査様式：子ども教育学科版＞

平成 25 年度卒業生満足度調査アンケート

南九州大学 FD 推進委員会

南九州大学では，よりよい魅力ある大学づくりのため，卒業予定のみなさんに「満足度調査」のお願いをしております。以下の設問に回答いただき，よりよい魅力ある大学づくりのご協力をお願いいたします。

設問の回答はすべて 5 択式になっています。該当する選択肢の番号に〇印をつけて回答して下さい。

【教育研究に対する設問】

① あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

② あなたは南九州大学の「創造性に富み，人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

③ あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的，応用的研究をすすめ，専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

④ あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ，あるいは優れた現場経験をもつなど，高い能力をもった教員による教育を受けることができる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑤ あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑥ あなたは子ども教育学科の「人の育ちと地域の育ちを支援する専門家」を育てるという子ども教育学科の方針にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑦ あなたは，子ども教育学科の4年生大学ならではの実践的で充実したカリキュラムのもと，保育士資格，幼稚園教諭一種免許，小学校教諭一種免許の三つの資格・免許を取得できることにどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑧ あなたは，子ども教育学科の小学校・幼稚園とつながって，恒常的に現場で学ぶことができる連携学校園方式を採用している点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑨ あなたは，子ども教育学科が掲げる「子どもの心身」「地域と子ども」「自然環境」という学びの 3 つの特色にどの程どの程度満足しましたか。

5：特に魅力を感じている	4：多少魅力を感じている	3：どちらでもない
2：あまり魅力を感じない	1：まったく魅力を感じていない	

⑩ あなたは，子ども教育学科の4年間の学びを教員がきめ細かにサポートする，ホーム制や1年次後期から始まる少人数のゼミについてどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑪ あなたは，子ども教育学科のボランティア活動など，実践的に地域活動へ参加し，子どもとの関わりや地域との関わりを学ぶ「子ども支援地域活動」という独自の科目にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑫ あなたは，子ども教育学科の学生一人ひとりの学習意欲の向上や科目履修計画作成に役立つようにGPA制度という成績評価システムを採用し，年間表彰も行っている点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑬ あなたは，子ども教育学科の脈絡なく単位をとることなく，しっかり学習ができるよう年間取得単位を制限するCAP制を導入していることにどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑭ あなたは，子ども教育学科が「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」という，学外に開かれた3つの活動拠点を有している点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑮ あなたは，子ども教育学科の「夢を叶える塾」での就職試験対策など，手厚い進路サポートがあることにどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

【就職支援に対する設問】

① あなたは南九州大学の「“就職課”があり，当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

② あなた南九州大学の「将来の進路に関してのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

③ あなたは南九州大学の「地元へのＵターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

【学習・生活支援に対する設問】

① あなたは南九州大学の「“学生支援課”があり当該課の専門スタッフが学習支援（各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等）をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり，学生の学習支援に役立っている」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

③ あなたは南九州大学の「“保健室・学生相談室”があり，当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談，大学生活に関しての悩み相談をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

④ あなたは南九州大学の「“生協売店・生協食堂”があり，学生生活の支援充実をはかってくれている」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑥ あなたは南九州大学の「課外活動（部活動，学友会，学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり，学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

【施設・設備に対する設問】

① あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室（フィールドセンターを含む）が整備されている」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

② あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内 LAN の充実，情報処理室の充実等）」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

③ あなたは南九州大学の「清潔で機能的で，また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

④ あなたは南九州大学の「通学に関して，スクールバスの運行や広い駐車・駐輪場を有しており，通学に便利である」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑤ あなたは南九州大学の「体育館・グランドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

⑥ あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度満足しましたか。

5：特に満足している	4：多少満足している	3：どちらでもない
2：あまり満足していない	1：まったく満足していない	

学科の設問について

＊＊注意＊＊

教育研究に関する設問の⑥番以降の設問については学科別設問とする。
以下に子ども教育学科以外の学科の設問を示す（魅力度調査の設問を示す。満足度調査の場合は「魅力を感じていますか」が「満足しましたか」になる。なお，食品開発科学科の満足度調査では学科名が「食品健康学科」となる。）。

＜環境園芸学科＞

①あなたは環境園芸学科が，「環境」を基礎に置きつつ，「緑，食，人」をキーワードとして教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

②あなたは環境園芸学科が，附属の実験施設やフィールドセンター等を活用した実学教育と少人数教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

③あなたは環境園芸学科が，6 つの専攻（園芸生産環境，植物バイオ・育種，花・ガーデニング，造園緑地，自然環境，アグリビジネス）を設けていることにどの程度魅力を感じていますか。

④あなたは環境園芸学科が，1 年次に人間性と社会性豊かな教養を身につけるための「教養教育科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

⑤あなたは環境園芸学科が，1 年次に農学の分野の専門職業人として必要とされる基礎的な知識と技術を身につけるための「専門基礎科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

⑥あなたは環境園芸学科が，専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために「専門教育科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

⑦あなたは環境園芸学科が，幅広い知識を身につけるために，自分が目指す専門分野を超えて関心のある科目を履修できるように「専門選択科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

⑧あなたは環境園芸学科が，講義に加えて，演習や実験，実習の専門授業を数多く設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

⑨あなたは環境園芸学科が，3 年次後期に全員の研究室配属を行い，身につけた知識や技術を駆使して，新たな問題の探求能力や解決能力を養成するカリキュラムを取っていることにどの程度魅力を感じていますか。

⑩あなたは環境園芸学科が，4 年次で卒業論文を学科の必須として，専門性を高めることとしていることにどの程度魅力を感じていますか。

⑪あなたは環境園芸学科が，教員免許，学芸員免許，樹木医補，測量士補などの資格や免許の取得に対応した「専門選択科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

＜食品開発科学科＞

①あなたは食品開発科学科が，食品製造者と消費者の両方の視点，および食に関する科学的知識と倫理を身につけた食品のスペシャリストを養成するための教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

②あなたは食品開発科学科が，食品の開発・製造（美味しくつくること）に携わる専門家を育成するための教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

③あなたは食品開発科学科が，食品の適正利用（正しく食べること）の専門家を育成する目的で教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

④あなたは食品開発科学科が，食品の衛生（安全を守る）・機能性（体調調節）の専門家を育成するための教育・研究を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

⑤あなたは食品開発科学科が，講義に加えて，実験・実習・学外インターンシップなどの授業を多く設置し，実践的能力を身につけるための教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。

⑥あなたは食品開発科学科において，フードサイエンスの基礎科目から食品の衛生・機能性に関する基幹科目，食品の開発・製造および食品の適正利用に関する実学科目に至るまで体系的に組まれたカリキュラムに従って履修できることに，どの程度魅力を感じていますか。

⑦あなたは食品開発科学科において，1～3 年次に学んだ食品開発および食品利用のあり方を集約して，4 年次に卒業論文，専攻演習に取り組むことができることにどの程度魅力を感じていますか。

⑧あなたは食品開発科学科において，食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格を取得できることにどの程度魅力を感じていますか。

⑨あなたは食品開発科学科において，高等学校教諭 1 種（農業・理科），中学校教諭 1 種（理科）の資格を取得できることにどの程度魅力を感じていますか。

⑩ あなたは食品開発科学科において，フードスペシャリスト，健康食品管理士を始め，他の食品関連資格を取得できることにどの程度魅力を感じていますか。

＜管理栄養学科＞

① あなたは管理栄養学科の「人生観，世界観を考える社会性と人間性を備えた教養豊かで健康な専門職業人の育成を目指している」点にどの程度満足しましたか。

② あなたは管理栄養学科の「将来，保健・医療・福祉・介護，および栄養教育の分野で専門的知識や技術を持ち，地域住民の生活の質の向上に貢献できる応用実践力があり，かつ視野の広い管理栄養士を育成する」点にどの程度満足しましたか。

③ あなたは管理栄養学科の「栄養士および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる」点にどの程度満足しましたか。

④ あなたは管理栄養学科の「栄養教諭 1 種免許を取得できる」点にどの程度満足しましたか。

⑤ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士・栄養士の活躍する現場で職業体験ができる“臨地・校外実習”をカリキュラムに組み込んでいる」点にどの程度満足しましたか。

⑥ あなたは管理栄養学科の「医療機関や行政などの現場をよく知る教授陣によって，豊富な知識と実践技術が学べる」点にどの程度満足しましたか。

⑦ あなたは管理栄養学科の「地元宮崎に貢献できる管理栄養士の人材育成をしている」点にどの程度満足しましたか。

⑧ あなたは管理栄養学科の「チーム医療に参画できる臨床栄養のスペシャリストとして，高度な専門知識・技能を習得できる」点にどの程度満足しましたか。

⑨ あなたは管理栄養学科の「管理栄養士国家試験合格に向けた支援が充実していて，合格率 100%を目指している」点にどの程度満足しましたか。

⑩ あなたは管理栄養学科の「栄養学の基礎から応用までの充実した研究を行っている研究室を多数有している」点にどの程度満足しましたか。

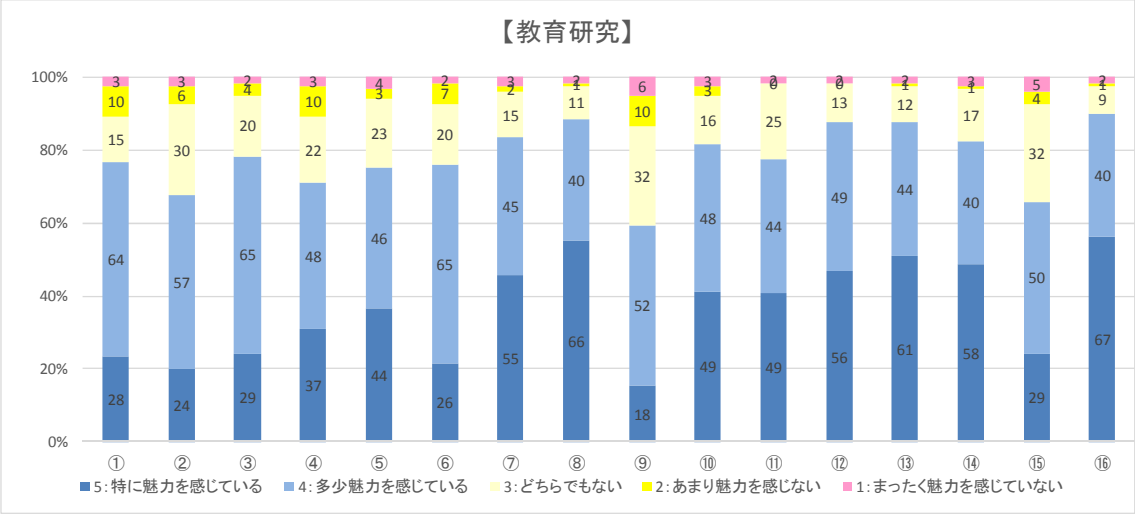
アンケート結果の分析については，本学のユニークな学科構成を考慮して，学科・センター別に分析を行った。以下に学科・センター別に分析した結果を示す。

【環境園芸学科】

平成 25 年度新入生魅力度調査（環境園芸学科）

【教育研究に対する設問】

①	あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度魅力を感じていますか。
②	あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度魅力を感じていますか。
③	あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度魅力を感じていますか。
④	あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をもつなど、高い能力を持った教員による教育を受けることができる」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑤	あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑥	あなたは環境園芸学科が、「環境」を基礎に置きつつ、「緑、食、人」をキーワードとして教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
⑦	あなたは環境園芸学科が、附属の実験施設やフィールドセンター等を活用した実学教育と少人数教育を行っていることにどの程度魅力を感じていますか。
⑧	あなたは環境園芸学科が、6つの専攻（園芸生産環境、植物バイオ・育種、花・ガーデニング、造園緑地、自然環境、アグリビジネス）を設けていることにどの程度魅力を感じていますか。
⑨	あなたは環境園芸学科が、1年次に人間性と社会性豊かな教養を身につけるための「教養教育科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
⑩	あなたは環境園芸学科が、1年次に農学の分野の専門職業人として必要とされる基礎的な知識と技術を身につけるための「専門基礎科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
⑪	あなたは環境園芸学科が、専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために「専門教育科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
⑫	あなたは環境園芸学科が、幅広い知識を身につけるために、自分が目指す専門分野を超えて関心のある科目を履修できるように「専門選択科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
⑬	あなたは環境園芸学科が、講義に加えて、演習や実験、実習の専門授業を数多く設置していることにどの程度魅力を感じていますか。
⑭	あなたは環境園芸学科が、3年次後期に全員の研究室配属を行い、身につけた知識や技術を駆使して、新たな問題の探求能力や解決能力を養成するカリキュラムを取っていることにどの程度魅力を感じていますか。
⑮	あなたは環境園芸学科が、4年次で卒業論文を学科の必須として、専門性を高めることとしていることにどの程度魅力を感じていますか。
⑯	あなたは環境園芸学科が、教員免許、学芸員免許、樹木医補、測量士補などの資格や免許の取得に対応した「専門選択科目」を設置していることにどの程度魅力を感じていますか。

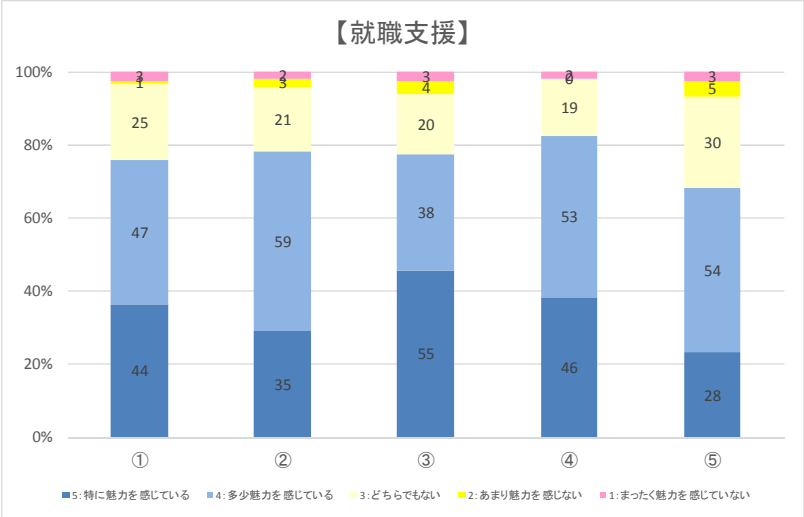


・全体的にみると全ての設問で新入生のほぼ 6 割以上が魅力を感じていると答えており、本学並びに環境園芸学科の教育研究理念やカリキュラムに受験生に対する一定の訴求力があり、新入生はそれに期待しているものと思われる。

・昨年度と同じく、全設問の中で設問⑨（教養教育科目の設置）が最も魅力度が低い。フレッシュマンアワーや環境園芸概論など通し、入学後早い段階で新入生全員に教養教育科目の重要性・位置づけを理解させることも必要であると考えられる。

【就職支援に対する質問】

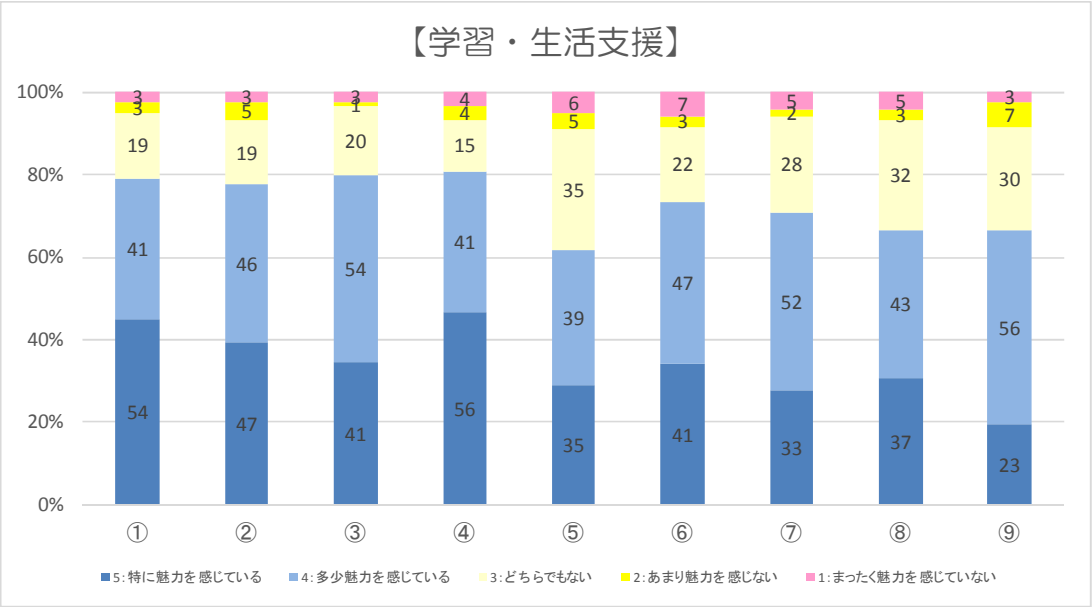
① あなたは南九州大学の「“就職課”があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
② あなたは南九州大学の「将来の進路に関してのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。
③ あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。



・就職支援について新入生の 6 割以上が魅力を感じていると答えているが、現時点で具体的に就職活動は行っていないと考えられる。同じ年代の学生に対する調査ではないが卒業生満足度調査では、就職支援の不足傾向が結果として現れていることから、具体的にどのような支援が必要であるか調査・分析が必要であると思われる。

【学習・生活支援に対する質問】

① あなたは南九州大学の「“学生支援課”があり、当該課の専門スタッフが学習支援（各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等）をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度魅力を感じていますか。
③ あなたは南九州大学の「“保健室・学生相談室”があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談、大学生活に関しての悩み相談をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。
④ あなたは南九州大学の「“生協売店・生協食堂”があり、学生生活の支援充実をはかってくれている」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑥ あなたは南九州大学の「課外活動（部活動、学友会、学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度魅力を感じていますか。

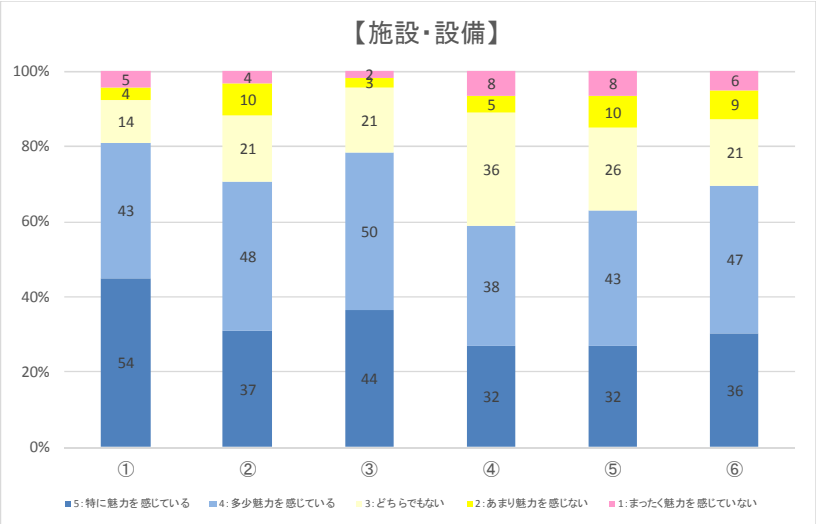


・全設問で 6 割以上が魅力を感じており、学習・生活支援に対する期待感が伺える。

・昨年度同様、設問⑤「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」が最もポイントが低かった。都城キャンパスに寮がないことがその原因の一つかもしれない。

【施設・設備に対する質問】

①	あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室（フィールドセンターを含む）が整備されている」点にどの程度魅力を感じていますか。
②	あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内LANの充実、情報処理室の充実等）」点にどの程度魅力を感じていますか。
③	あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度魅力を感じていますか。
④	あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑤	あなたは南九州大学の「体育館・グランドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。
⑥	あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度魅力を感じていますか。



・キャンパスの施設・設備についても概ね好印象を頂いていると思われる。

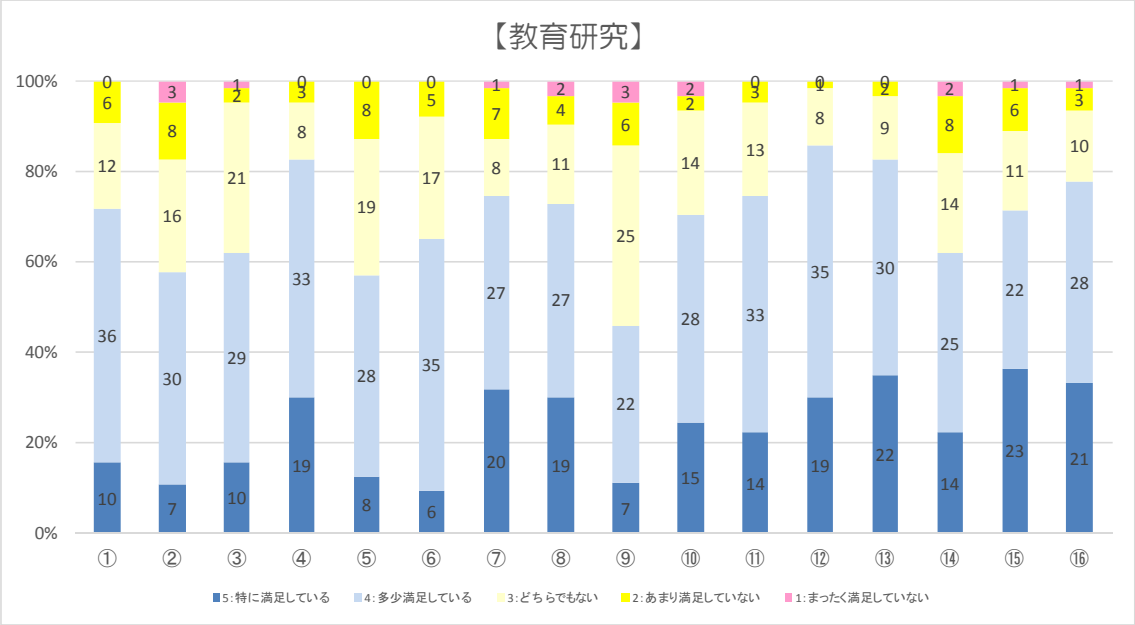
【全体を通して】

・調査した各設問に対して、あまりあるいは全く魅力を感じないとの回答は 2 割未満であり、本学並びに本学科の教育研究、就職支援、学習・生活支援および施設・設備は新入生の多くに魅力あるものになっていることが示された。この高い魅力度を高い満足度に繋げる取り組みが重要であると思われる。また、新入生（高校生）のニーズは変化するものと考えられることから、今後、時代に即した対応も必要であると考えられる。

平成 25 年度卒業生満足度調査（環境園芸学科）

【教育研究に対する設問】

①	あなたは南九州大学の「豊かな自然と温和な気候に恵まれた南九州の環境」で勉学に励めることをどの程度満足しましたか。
②	あなたは南九州大学の「創造性に富み、人間性と社会性豊かな人間を育成する」点にどの程度満足しましたか。
③	あなたは南九州大学の「食・緑・人に関する基礎的、応用的研究をすすめ、専門的分野において社会に貢献寄与できる人材を育成している」点にどの程度満足しましたか。
④	あなたは南九州大学の「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験をも+A5:B6つなど、高い能力を持った教員による教育を受けることができる」点にどの程度満足しましたか。
⑤	あなたは南九州大学の「優れた研究環境のもと最先端の研究ができる」点にどの程度満足しましたか。
⑥	あなたは環境園芸学科が、「環境」を基礎に置きつつ、「緑、食、人」をキーワードとして教育を行っていることにどの程度満足しましたか。
⑦	あなたは環境園芸学科が、附属の実験施設やフィールドセンター等を活用した実学教育と少人数教育を行っていることにどの程度満足しましたか。
⑧	あなたは環境園芸学科が、6つの専攻（園芸生産環境、植物バイオ・育種、花・ガーデニング、造園緑地、自然環境、アグリビジネス）を設けていることにどの程度満足しましたか。
⑨	あなたは環境園芸学科が、1年次に人間性と社会性豊かな教養を身につけるための「教養教育科目」を設置していることにどの程度満足しましたか。
⑩	あなたは環境園芸学科が、1年次に農学の分野の専門職業人として必要とされる基礎的な知識と技術を身につけるための「専門基礎科目」を設置していることにどの程度満足しましたか。
⑪	あなたは環境園芸学科が、専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために「専門教育科目」を設置していることにどの程度満足しましたか。
⑫	あなたは環境園芸学科が、幅広い知識を身につけるために、自分が目指す専門分野を超えて関心のある科目を履修できるように「専門選択科目」を設置していることにどの程度満足しましたか。
⑬	あなたは環境園芸学科が、講義に加えて、演習や実験、実習の専門授業を数多く設置していることにどの程度満足しましたか。
⑭	あなたは環境園芸学科が、3年次後期に全員の研究室配属を行い、身につけた知識や技術を駆使して、新たな問題の探求能力や解決能力を養成するカリキュラムを取っていることにどの程度満足しましたか。
⑮	あなたは環境園芸学科が、4年次で卒業論文を学科の必須として、専門性を高めることとしていることにどの程度満足しましたか。
⑯	あなたは環境園芸学科が、教員免許、学芸員免許、樹木医補、測量士補などの資格や免許の取得に対応した「専門選択科目」を設置していることにどの程度満足しましたか。

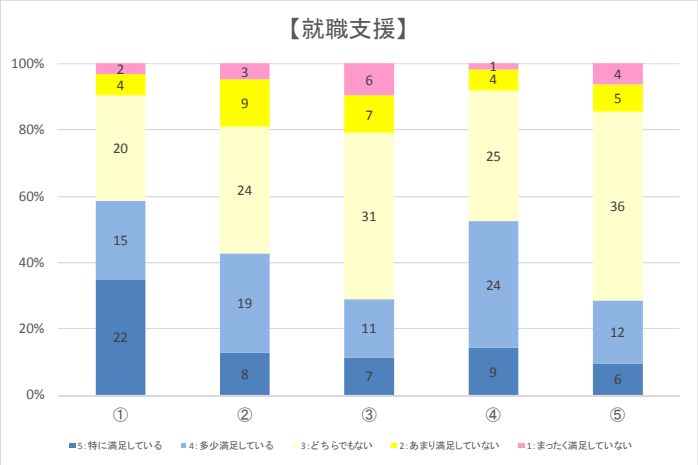


・設問 16 問中 1 問を除き半数以上で満足が得られており、また、いずれの設問においても満足していないと回答した学生は2割以下である。

・『教養教育科目の設置』ついての設問⑨で唯一満足度が 50%を下回った。これに対し、設問⑫『自分が目指す専門分野を超えて関心のある科目を履修できるように「専門選択科目」を設置』、設問⑬『講義に加えて、演習や実験、実習の専門授業を数多く設置』、については 8 割以上の学生が満足していると回答している。これらの結果から、本学科の学生は教養教育科目よりも専門科目に高い関心を持っていることが示唆される。今後、学生への教養科目の重要性の理解や教養科目の在り方、教養と専門のバランス（専門の特化も含め）などについて検討が課題として考えられる。

【就職支援に対する質問】

① あなたは南九州大学の「“就職課”があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
② あなたは南九州大学の「将来の進路に関してのセミナー・ガイダンスや公務員・教員就職のための講座が充実している」点にどの程度満足しましたか。
③ あなたは南九州大学の「地元へのUターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
④ あなたは南九州大学の「各学科に関連する業界の求人情報を多く扱っている」点にどの程度満足しましたか。
⑤ あなたは南九州大学の「インターンシップ制度が充実している」点にどの程度満足しましたか。



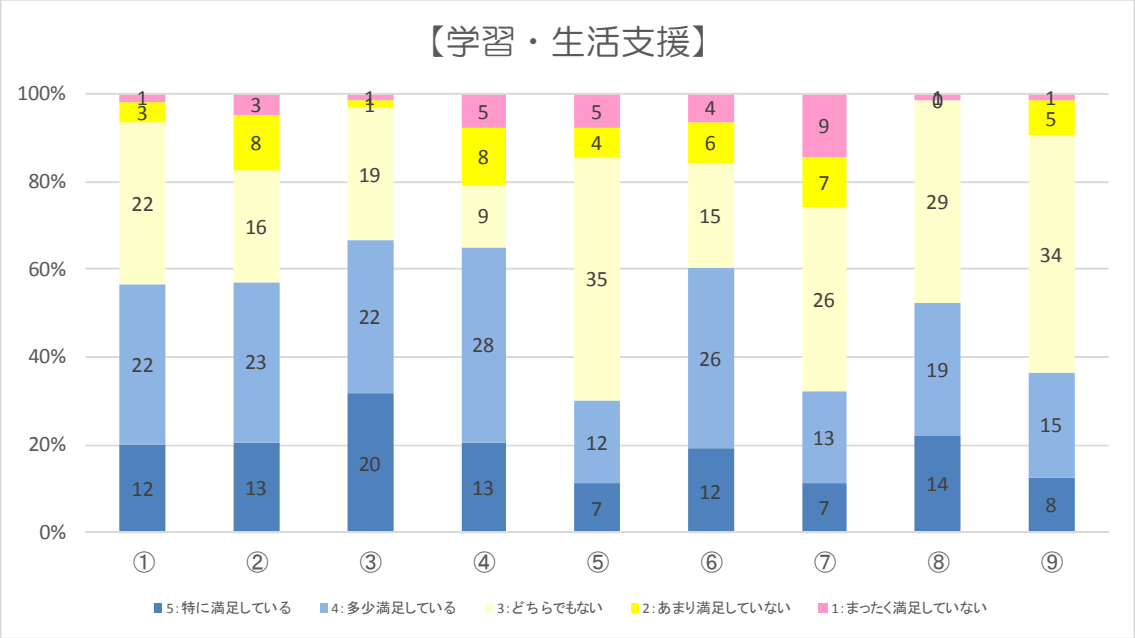
・就職課の就職活動支援（設問①）および求人情報の取り扱い（設問④）については半数以上が満足しているが、設問②、③および⑤については十分な満足が得られていない。

・設問②『就職のための講座』および説問⑤『インターンシップ制度』については就職課および学科として充実を図っており、今後その内容・取組みについての学生への周知が必要であると考えられる。

・設問③『地元へのUターン就職』については、本学科は全国から学生が集まっていること、現在未だに就職氷河期で地方都市での求人が少ないこと、本学科学生の就職活動開始が遅いことなどが要因として考えられる。いずれにしても早期の地元にどのような就職先（企業・役場・団体など）があり、それらの求人や採用試験の情報収集と対応が重要であることを就職課と連携を取り学生に指導していく必要があると考えられる。

【学習・生活支援に対する質問】

① あなたは南九州大学の「“学生支援課”があり、当該課の専門スタッフが学習支援（各種証明書発行・休講時連絡・アルバイト情報等）をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
② あなたは南九州大学の「充実した蔵書・雑誌・新聞・視聴覚機器・閲覧スペース等のある図書館があり、学生の学習支援に役立っている」点にどの程度満足しましたか。
③ あなたは南九州大学の「“保健室・学生相談室”があり、当該室の専門スタッフが怪我・体調不良の治療や体調管理等に関する相談、大学生活に関しての悩み相談をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。
④ あなたは南九州大学の「“生協売店・生協食堂”があり、学生生活の支援充実をはかってくれている」点にどの程度満足しましたか。
⑤ あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンション等の斡旋がある」点にどの程度満足しましたか。
⑥ あなたは南九州大学の「課外活動（部活動、学友会、学祭実行委員会等）が充実していて楽しく思い出に残る学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。
⑦ あなたは南九州大学の「毎年有意義な学校行事（大学祭等）が行われている」点にどの程度満足しましたか。
⑧ あなたは南九州大学の「充実した奨学金・特待生制度がある」点にどの程度満足しましたか。
⑨ あなたは南九州大学の「各学年の教員による担任制度があり、学習支援・学生生活支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか。



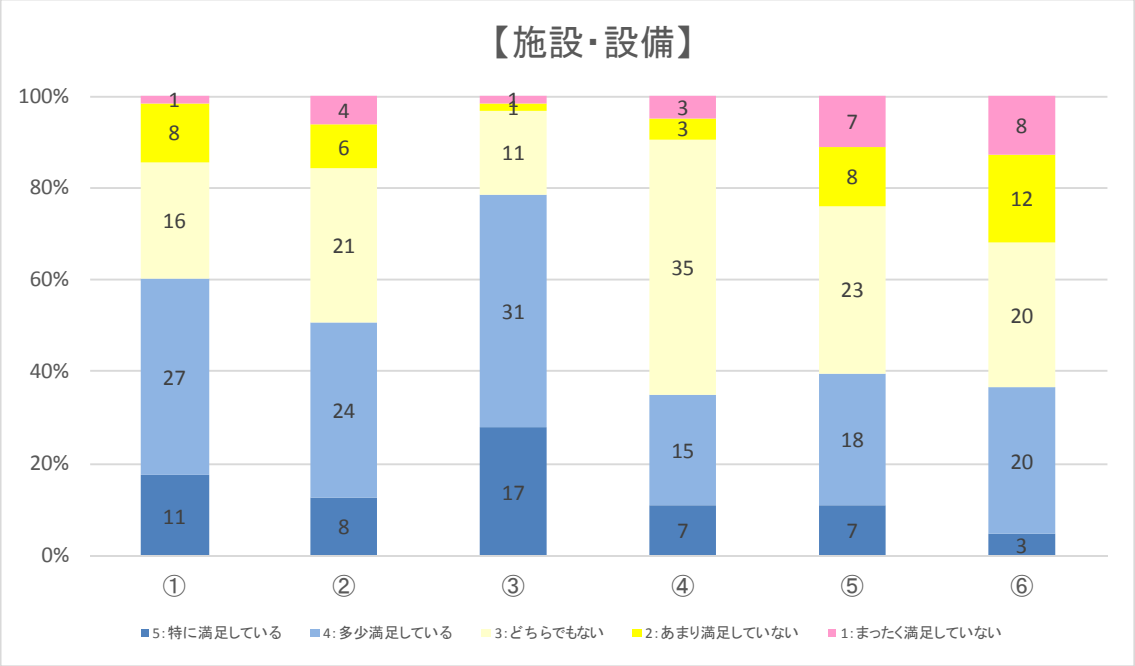
・設問⑤、⑦および⑨において、満足度を得ている学生が半数に満たない。

・設問⑤『下宿生を対象にした住居の斡旋』、設問⑦『有意義な学校行事』については全学的な問題として対応する必要がある。

・設問⑨『担任制度』については、本学科では 3 年前期までは学年ごとに 4 人の教員が、3 年後期の研究室配属後はその研究室の教員が担任として指導に当っているが、研究室配属後の教員を担任として考えて回答していない可能性があり、設問を修正することにより、満足度が上がる可能性がある。

【施設・設備に対する質問】

①	あなたは南九州大学の「最先端の機器を導入した実験室や実際の現場を想定した実習室（フィールドセンターを含む）が整備されている」点にどの程度満足しましたか。
②	あなたは南九州大学の「インターネット環境が充実し整っている（学内LANの充実、情報処理室の充実等）」点にどの程度満足しましたか。
③	あなたは南九州大学の「清潔で機能的で、また快適な校舎で学生生活が送れる」点にどの程度満足しましたか。
④	あなたは南九州大学の「通学に関して、スクールバスの運行や広い駐車場・駐輪場を有しており、通学に便利である」点にどの程度満足しましたか。
⑤	あなたは南九州大学の「体育館・グランドなどの運動施設やサークル活動の支援施設（クラブハウス）が充実している」点にどの程度満足しましたか。
⑥	あなたは南九州大学の「休憩時間中にすごせる憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）が充実している」点にどの程度満足しましたか。



・設問④、⑤および⑥において、満足度を得ている学生が半数に満たない。
・設問④『通学に便利』、設問⑤『運動施設、サークル活動の支援施設』、設問⑥『憩の場』については共に全学的な問題として対応を検討する必要がある。

【管理栄養学科】
＜新入生魅力度調査結果＞
【教育研究に対する質問】
・質問①から⑤までが「南九州大学」の教育研究の理念等に対する魅力度調査であり、質問⑥から⑮までが「管理栄養学科」の教育研究に対する魅力度調査であった。
・ 全体的にすべての質問で魅力が高いことが分かり、新入生の「本学・本学科の教育研究」対して魅力を感じ期待を持って入学してきていることが分かった。
・ 管理栄養学科の質問の方が魅力度の高い傾向であることが分かった。
・ 特に、質問⑧、⑩および⑭の「免許取得」や学科特有の科目に対して魅力を強く感じていることが分かった。
・ 質問②の大学の校風に関しての質問については、「どちらでもない」が他の質問に比較して多く、まだ入学して間もない為、低い数値となったことが予想される。

【就職支援に対する質問】
・ 就職支援に対する魅力度については、教育研究に対する魅力度ほど高くないことが分かった。
・ 本学の就職支援は、我が国の他大学で行われている就職支援と大きく変わらないことから、本学の支援に対しての魅力が小さいのかもしれない。
・ 質問③の質問で「Uターン就職」に関する質問があるが、管理栄養学科は宮崎県内出身者の多い学科であることから、「宮崎県内の地元就職に対する魅力度」について質問を設けてもいいかもしれない。

【学習・生活支援に対する質問】
・ 質問内容にもよるが、学習・生活支援に対する質問に関しては、全体的に魅力を感じて入学してきている傾向があった。
・ 質問①の学生支援に関しての質問には魅力度が高く、同時に④の生協売店および生協食堂による生活支援に関しては魅力度が高い傾向にあり、学内での生活することに対して魅力があることが分かった。
・ 地元宮崎県出身の多い（特に宮崎市周辺から）管理栄養学科の新入生にとっては、質問⑤の下宿斡旋に関しては、魅力が低かった。

【施設・設備に対する質問】
・ 質問内容にもよるが、施設・設備に対する質問に関しては、全体的に魅力を感じて入学してきている傾向があった。
・ 管理栄養学科が設置されている宮崎キャンパスは開設 10 年と比較的新しいキャンパスであることから、質問③をはじめ幾つかの質問で魅力度が高いことが分かった。
・ 質問⑤の項目については、他の質問に比較して「どちらでもない」が少し多く、このことはサークル活動を行っていない学生からの評価と考えられる。

＜卒業生満足度調査結果＞

【教育研究に対する質問】

・「特に満足している」と「多少満足している」を合わせて 50%を下回っている質問が⑨であるが、この質問は教職を取っていない学生が「どちらでもない」と答えた結果であろうと考えられる。

・ 本年度の「国試対策」に対する満足度の質問⑭が高いのは、とても良い結果であると考える。国家試験合格にむけてどう頑張らせるのかを今後真剣に考えていかなくてはならない。

・「人間性を育てる」等の質問である②・③・⑥、「研究」等の質問である⑤の満足度が低いのに対し、「技術を身につける」等の質問である④や⑩の満足度が高かった。学生たちは人間教育・研究よりも技術習得に満足しているようである。

【就職支援に対する質問】

・ 質問①以外の質問はすべて「多少満足している」と「どちらでもない」が高く、就職支援に対して満足度が低いことが分かった。

・ 質問③はかなり満足度が低かったが、宮崎県内出身者が多いことが原因で大きな問題ではないと思われる。

・特に質問⑤で「どちらでもない」が半数以上を占めているのは、本学科ではインターンシップ制度を殆ど利用していないことから、このような結果となったと思われ、この質問に関しては本学科には合わないものであり、別の質問を使用することも必要かと思われる。

【学習・生活支援に対する質問】

・ 多くの質問で「特に満足している」と「多少満足している」を合わせて 50%を下回っており、学習・生活支援に対して満足度が低いことが分かり、特に質問⑤はかなり満足度が低かったが、宮崎県内出身者が多いことが原因で大きな問題ではないと思われる。

・ 質問①は「特に満足している」と「多少満足している」を合わせて 50%を下回っており、今後 5 時以降の窓口業務実施等の学生満足度向上のための事業改革の必要性を検討しなくてはならない。

・質問②の図書館の利用度の満足度は多少高いものであり、また質問④の生協売店・食堂の存在は学生にとって満足度の高いものであることが分かった。

【施設・設備に対する質問】

・ 質問⑤で満足度が低かったが、クラブ活動等を行う学生が一部学生しかいないことから満足度が低くなったものと考えられる。

・ 質問②および④、⑥の満足度は決して高いわけではないが、どちらでもないと回答を保留にする者、不満に思う者が数名見られた。今後この点に関するさらなる充実が必要になると思われる。

・ 開設 10 年を超えた宮崎キャンパスにとっては、まだ施設が新しく清潔感のあることから質問③の満足度はいものの、施設・設備は劣化等が避けられないものであり、今後施設・設備が老朽化してきた際の対策を、しっかり立てていかなくてはならない。

【食品開発科学科】

＜新入生魅力度調査結果＞

[教育研究に対する質問]

設問⑦「食品の開発・製造（美味しくつくること）に携わる専門家を育成するための教育・研究」、設問⑬「食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格」、設問⑮「フードスペシャリスト、健康食品管理士を始め、ほかの食品関連資格」について、「特に満足している」または「多少満足している」と回答した学生が 8 割を超えていたことが特筆に値する。

【教育研究に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
5	特に魅力を感じている	3	4	9	9	7	8	12	11	8	8	6	6	15	11	15
4	多少魅力を感じている	17	20	19	17	18	20	20	17	19	20	17	14	15	14	15
3	どちらでもない	12	11	8	8	10	8	4	8	9	6	13	11	6	6	6
2	あまり魅力を感じない	4	1	0	2	1	0	0	0	0	2	0	5	0	4	0
1	まったく魅力を感じていない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[就職支援に対する質問]

[学習・生活支援に対する質問]

「魅力を感じている」との回答が大半であった。新入生の期待に沿えるように努力の継続が必要である。

また、「どちらでもない」以下の回答をしたグループについては、対策が必要である。

【就職支援に対する質問】		①	②	③	④	⑤
5	特に魅力を感じている	8	7	8	6	7
4	多少魅力を感じている	19	15	15	17	14
3	どちらでもない	9	14	13	13	15
2	あまり魅力を感じない	0	0	0	0	0
1	まったく魅力を感じていない	0	0	0	0	0
	未回答	0	0	0	0	0

【学習・生活支援に対する質問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
5	特に魅力を感じている	10	10	14	13	9	12	10	11	11
4	多少魅力を感じている	16	14	13	9	12	13	18	13	16
3	どちらでもない	7	9	8	12	8	8	7	10	9
2	あまり魅力を感じない	2	2	1	1	1	3	1	1	0
1	まったく魅力を感じていない	0	1	0	1	6	0	0	1	0
	未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[施設・設備に対する質問]

どの項目についても、学生のほとんどは魅力を感じていると考えられる。しかしながら、どの項目に関しても「どちらでもない」、「あまり魅力を感じない」、「まったく魅力を感じていない」という回答も見られた。入学後しばらく経過後に調査を実施したことから、既に学内施設の不便な点を感じ始めた新入生が一部いたと考えられる。この点に関しては早急に対策を講じる必要がある。

【施設・設備に対する質問】		①	②	③	④	⑤	⑥
5	特に魅力を感じている	10	10	14	13	9	12
4	多少魅力を感じている	16	14	13	9	12	13
3	どちらでもない	7	9	8	12	8	8
2	あまり魅力を感じない	2	2	1	1	1	3
1	まったく魅力を感じていない	0	1	0	1	6	0
	未回答	1	0	0	0	0	0

＜卒業生満足度調査結果＞

[教育研究に対する設問]

設問④「優れた教育研究業績をもつ、あるいは優れた現場経験を持つなど、高い能力をもった教員による教育を受けることができる」に対し、「特に満足している」、「多少満足している」と回答した割合が 88%となっており、これは満足度が高いことを示している。

設問⑪「あなたは食品健康学科において、フードサイエンスの基礎科目から食品の衛生・機能性に関する基幹科目、食品の開発・製造および食品の適正利用に関する実学科目に至るまで体系的に組まれたカリキュラムに従って履修できることに、どの程度満足しましたか。」に対して、「特に満足している」、「多少満足している」と回答した割合も 88%に達しており、これも満足度高いことを示している。

一方、設問⑭「高等学校教諭1種（農業・理科）、中学校教諭1種（理科）の資格を取得できること」に関しては、「特に満足している」、「多少満足している」と回答した割合は 41%であり、満足度がまだ不十分であることを示している。

【教育研究に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
5	特に満足している	6	3	6	4	4	3	6	5	6	8	5	3	5	3	5
4	多少満足している	8	6	7	11	7	8	8	9	6	5	10	11	7	4	7
3	どちらでもない	2	4	2	1	5	5	2	2	4	3	1	2	3	10	4
2	あまり満足していない	1	4	2	1		1	1	1	1	1	1		2		1
1	まったく満足していない					1							1			
	未回答															

＊回答数は 17。以下同じ。

[就職支援に対する設問]

設問①「あなたは南九州大学の「”就職課”があり、当該課の専門スタッフが就職活動支援をしてくれる」点にどの程度満足しましたか」について、「特に満足している」、「多少満足している」と回答した割合は 59%であり、まだ改善の余地があることが推測される。

また、設問③「あなたは南九州大学の「地元への U ターン就職に対して全力でサポートしてくれる」点にどの程度満足しましたか」については、「特に満足している」が 0%であり、「多少満足している」が 29%であり、これも更なる改善の余地があることを示している。

【就職支援に対する設問】		①	②	③	④	⑤
5	特に満足している	3	1		1	4
4	多少満足している	7	7	5	1	5
3	どちらでもない	5	7	10	7	8
2	あまり満足していない	1	1	1	1	
1	まったく満足していない	1	1	1	1	
	未回答					

[学習・生活支援に対する設問]

設問④「あなたは南九州大学の「”生協売店・生協食堂”があり、学生生活の支援充実をはかってくれている」点にどの程度満足しましたか。」に対して、「特に満足している」、「多少満足している」と回答した割合は 76%であり、学生はほぼ満足していることがうかがえる。

しかし、設問⑤「あなたは南九州大学の「下宿生を対象にした充実した寮やマンションなどの斡旋がある」点にどの程度満足しましたか」に対しては、「特に満足している」が 0%、「多少満足している」は 24%、「どちらでもない」が 76%もあり、改善の余地があることがうかがえる。

【学習・生活支援に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
5	特に満足している	3	3	2	3		1	1	3	2
4	多少満足している	7	5	6	10	4	7	7	9	6
3	どちらでもない	5	9	9	3	13	5	5	4	6
2	あまり満足していない	2			1		3	3	1	1
1	まったく満足していない						1	1		
	未回答									2

[施設・設備に対する設問]

どの設問に対しても、「特に満足している」と「多少満足している」が 60%以上を占めており、施設・設備の充実度に対する学生の満足度が高いことがうかがえる。

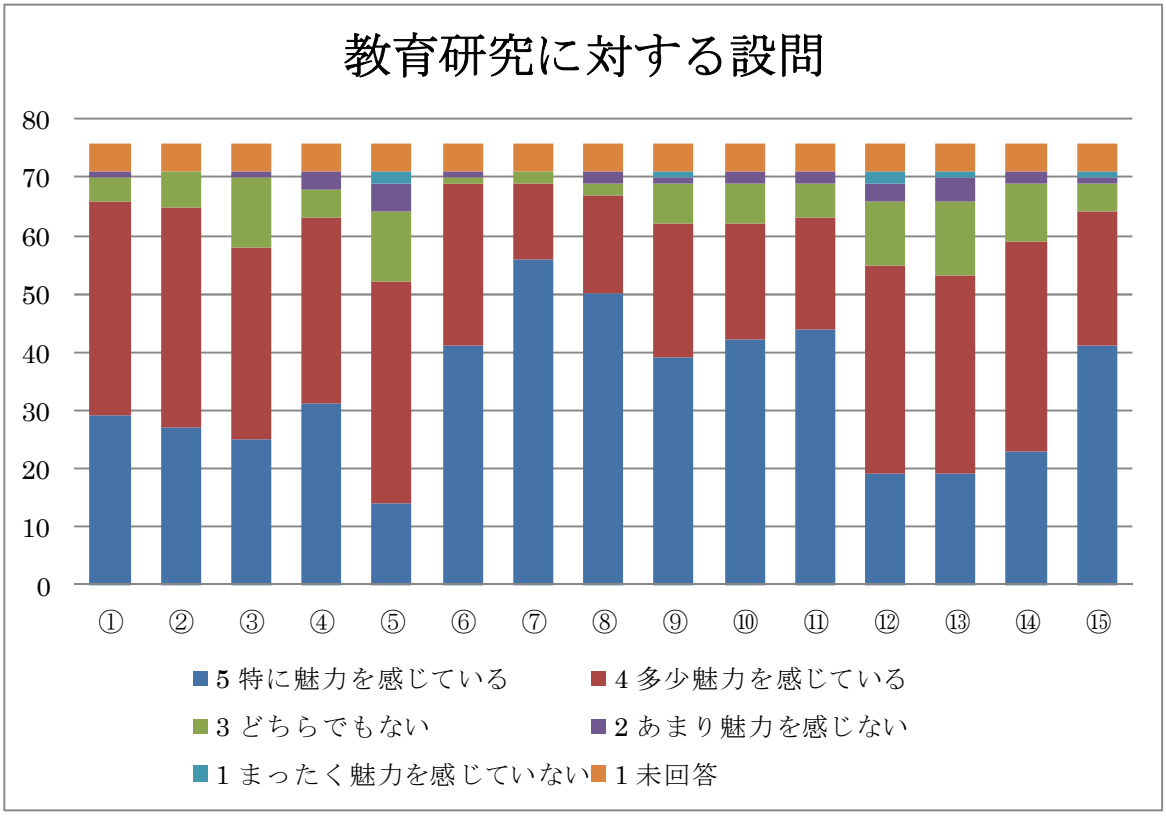
【施設・設備に対する設問】		①	②	③	④	⑤	⑥
5	特に満足している	2	4	7	6	3	3
4	多少満足している	9	10	7	7	7	8
3	どちらでもない	5	2	1	3	6	3
2	あまり満足していない						1
1	まったく満足していない	1	1	2	1	1	1

【子ども教育学科】

平成25年度　新入生魅力度調査アンケート

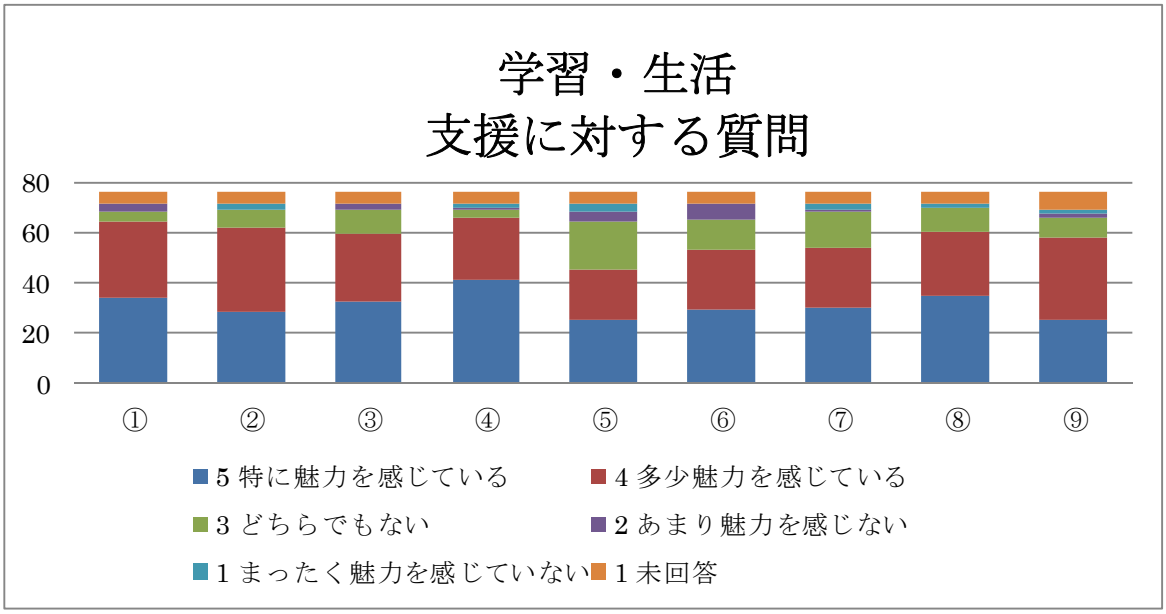
（7月9日(火)「保育原理」の際に76名を対象に実施）

【教育研究に対する設問】



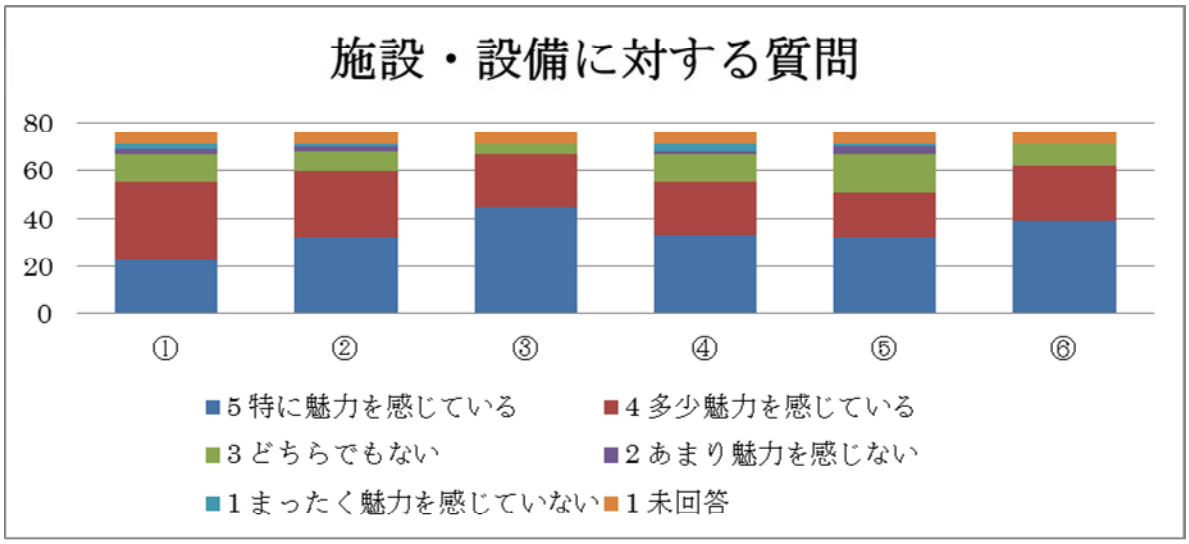
「特に魅力を感じている」のポイントの高い項目は、「三資格免許取得」が最も高く、次いで「連携学校園方式」、「子ども支援地域活動」、「ホーム制や少人数ゼミ」、「学科の方針」、「夢を叶える塾」の順であった。本学科に固有な取り組みに対して魅力度が高くなっている。

【学習・生活支援に対する質問】



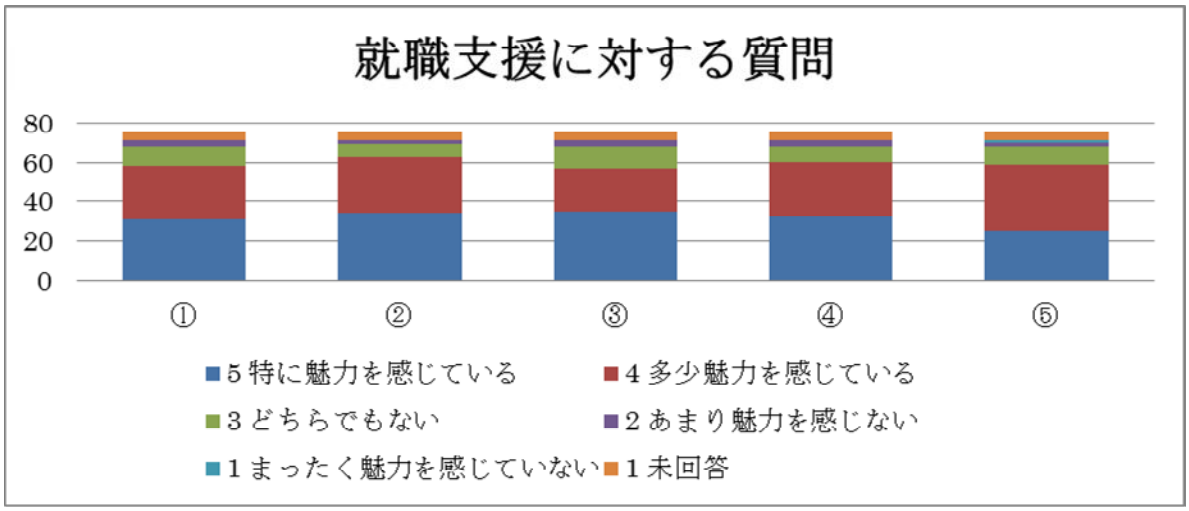
「特に魅力を感じている」のポイントの高い項目は、最も高かったのが「生協売店・食堂」で、次いで、「奨学金・特待生制度」、「学生支援課」、「保健室・学生相談室」、「学校行事」の順であった。学生生活に密着している項目が総合的にみてポイントが高い。

【施設・設備に対する質問】



ハード面について「特に魅力を感じている」のポイントの高い項目は、第1位が「清潔で機能的、快適な校舎」、次いで「憩いの場（食堂・中庭・学生ラウンジ等）」、「スクールバスや駐車場」と続く。建物自体が新しく、駐車スペース等十分な広さが確保されていることは学生にとって魅力的な環境だと言えよう。

【就職支援に対する質問】



「特に魅力を感じている」のポイントは、5項目中、4項目においてあまり違いがみられない。大学に入学して間もない時期ということもあり、就職支援を実感する機会が少ないためであろう。

4. 平成25年度　卒業生満足度調査アンケート

（34名に対して実施。本学科での初めての実施である。）

【教育研究に対する設問】

平均値が4.0ポイント以上の項目が15項目中8項目あり、最も高かったのが「三資格免許取得」、次いで「南九州の環境」、「高い能力を持った教員」、「ホーム制や少人数ゼミ」、「学科の方針」の順である。新入生の魅力度では上位となっていない「南九州の環境」、「高い能力を持った教員」のポイントが卒業生の満足度では高くなっている。4年間の

勉学の中で実感していったのだと思われる。

【学習・生活支援に対する質問】

平均値が4.0ポイント以上の項目はなく。どの項目も3ポイント台である。そうした中、平均値ポイントが最も高かったのは「担任制度」であった。身近な教員によるサポート体制は学生が大学生活を送る上で心強いものとして実感されていると言える。「奨学金・特待生制度」については「特に魅力を感じている」が9項目中最もポイントが高かったが、「多少魅力を感じている」のポイントは最も低くなっており、実際に制度を利用したかどうかで、満足度に違いが生じていると言えよう。「マンション等の斡旋」は「どちらでもない」のポイントが最も高くなっている。大学としての取り組みの現状や今後のあり様等について検討する必要があるのではないかと思う。

【施設・設備に対する質問】

平均値が最も高かったのは、「清潔で機能的、快適な校舎」、次いで「インターネット環境の充実」である。後者は、学年進行に伴ってインターネット活用の必要性が増してきたことから満足度が高くなったと言えよう。インターネット活用の機会の増大や学生数の増加に見合った一層の設備の充実を検討することが必要ではないだろうか。

【就職支援に対する質問】

平均値が4.0ポイント以上の項目はなく、どの項目も3ポイント台であった。そうした中、「就職課による支援」、「公務員・教員就職のための講座」が比較的ポイントが高かった。「Uターン就職サポート」や「インターンシップ制度」については「どちらでもない」のポイントが高くなっており、学生にとって身近なものとしてはとらえにくいしくみなのかもしれない。改善の余地がありそうである。

8. 学科・センター独自の FD 活動

ここでは、本学の各学科における「独自の FD 活動」について記録する。本学の学科構成は大変ユニークであり、各学科で質の高い FD 活動を独自に行ってきている。

環境園芸学科

1. 保護者懇談会の開催

保護者（全学年）から学科および都城事務部に対する意見を頂く場として年 1 回保護者懇談会を開催している。今年度は、保護者からの意見をしやすくするため、各学年をグループとし、保護者との意見交換を行った。保護者からはカリキュラムや履修登録、専攻の選定、就職（活動）、生活（寒さ・暑さ対策）などについて疑問や意見があり、各学年担当教員から丁寧な回答・説明がなされた。ただし、グループごとに分かれる際、教室内の机や椅子の配置、間隔に余裕がなく騒音で声が聞きづらかったとの保護者からのご指摘があった。また、学生数と保護者数の差への配慮がなく、準備する座席の数が不足した、学科紹介のパワーポイントのスライドに分野の偏りがあったなどの反省点があげられ、これらについては来年度の改善点としたい。

全体での懇談会後、個人面談を希望する保護者に対しては学生の学年担当・研究室指導教員等が個別に面談し質問・意見に対応した。

2. 学生指導

環境園芸学科では、学生の学習や進路、日常生活等の相談に応じるために、各学年担当の教員を配置している。学年持ち上がり方式をとっており、入学から、通常 3 年生の後期に研究室に所属し指導教員の元に学習活動を開始するまでの 2 年半の間、同じ教員が学生の諸問題に対応している。本学科の在学生の出身地は全国にわたり、一人暮らしをしている学生も少なくないため、日頃よりきめ細やかな対応を心掛けている。

1）1 年生への指導

担任 4 人と、学生部員、学生支援課、学生相談室等の教職員を交えて、1 年生全体を把握するために月 1 回程度の定例ミーティングを行っている。必修授業の連続欠席、体調不良、悩みを抱える学生を早期に把握するとともに、指導方法とその対応策を協議し実行した。また、適時、定例学科会議で報告して学生情報を共有し、学科教員への協力を依頼した。

保護者に、班ごとの担当教員、編入生対応教員、学科長、学生支援課、保健室、女子対応教員などの連絡先（メールアドレス、電話番号）を文書で連絡した。オリエンテーション時に、5 人ずつの集合写真を撮影し、顔と名前が一致するような資料を作成した。休みがちの学生について、身体的、精神的、家庭的にどのような特徴があるかを把握し、授業への参加を促す連絡を行ったり、親に連絡をしたり、機会があればできるだけ本人に話しかけるようにした。

2）2 年生への指導

担任教員 4 人と、学生相談に関わる教職員を交えて月 1 回の定例ミーティングを行った。学業不振や悩みを抱える学生を早期に見つけるとともに、指導方法を協議して適宜対応策を講じた。また、必要に応じて学科会議で報告することにより情報の共有化を図った。当該年次の学生は、予定通り、休学等の一部学生を除いて年度初めに所属する専攻が決まった。

3)3 年生への指導

環境園芸学科では、3 年生の後半からは原則として全ての学生が研究室に配属されることとなっている。配属学生数の上限を設定し、少人数による教育体制の堅持と研究室の担当教員の負担の偏りを無くする配慮を行っている。配属先の研究室では各教員が専攻演習や研究室の活動を通し専門分野の教育・研究指導のほか、履修・進路指導も行っている。配属作業においては、学生の希望を調査し、希望研究室が極力反映されるように配慮したが、その結果、研究室の配属者数が 2～7 名と不均衡となった。休学などの事情により研究室へ未配属の学生に対しては、3 年生担当教員が中心になり指導を行うとともに、次年度の研究室配属に向け2年生担当教員と情報の共有を図っている。休学中の学生については学生本人あるいは保護者と必要に応じて連絡を取り合っている。

4)4 年生への指導

上述したような学科の方針に基づき、学生は 3 年生後期から研究室配属され、4 年生の指導は引き続き配属先研究室の教員が中心となり行っている。必修科目である専攻演習や卒業論文を通し、教育・研究、さらには進路についても少人数あるいは個別指導を行っている。また、必要に応じ、保護者との連絡、学科での情報の共有を図っている。

3. 卒業研究概要集の作成

卒業研究概要集の作成は環境園芸学科として 2 回目となる。学科として 4 年生の卒業論文で取り組んだ研究内容の要旨を取りまとめた卒業研究概要集の作成し、卒業生、研究室に配布した。4 年生にとっては卒業論文の内容の整理、まとめ、またさらなる理解に繋がったものと考えられる。また、研究室配属 3 年生にとっては 4 年生の卒業論文や概要とその作成の取り組み姿勢に接することができたことは今後の自分の取り組みや研究内容の理解に大いに役立つと期待される。

4. オープンキャンパスの開催

環境園芸学科では、毎年、春と夏にオープンキャンパスを開催している。学科の全教員が参加することを基本とし、パネルやポスターの展示、実験や実習のデモンストレーション等を活用して、学科の紹介、特に研究室の紹介を行なっている。

夏の 2 回のオープンキャンパスでは 6 専攻 20 研究室のブースを設置し、各教員が創意工夫を重ねたブースによる研究内容の紹介を行った。また、各回 2 名の教員による模擬授業も行われた。

春のオープンキャンパスでは、5 専攻 18 研究室のブースを設置して、各教員が創意工夫を重ねたブースによる研究内容の紹介を行った。また、3 名の教員による模擬授業も行われた。

学友会の学生も生徒や保護者に対する学科やキャンパスの説明に加わり、参加者からは大学・学科についてわかりやすかったとの好評が得られた。

5. 学生の資格取得支援

1)園芸系

(1)毒物劇物取扱責任者

当該資格の説明会と受験講習会を隔年開催しているが、本年度は、説明会を行い、宮崎県の試験日程・会場等の情報を周知(就職課及び学生支援課と協働)するとともに教本や過去問題等の資料を提供した。

(2)土壌医検定

土壌医は今年度から日本土壌協会主催で創設された資格で、教育・研究・就職支援の一環としてその内容や受験について学生に情報提供を行った。

2)造園系

以下のような特別教育、講習および講義を行なった。

(1)小型車両系建設機械特別教育を実施し、50 名が受講し、全受講者が合格した。

(2)チェーンソー(伐木)特別教育の実施

(3)刈払機安全教育の実施

(4)造園技能士実技対策講習会の開催

(5)造園技能士学科試験対策講習会の開催

(6)造園技能士要素試験対策講座の開催

(7)建築 CAD 検定の開催

また、造園系では旧造園学科の活動を引き継ぎ、学外における各種造園活動も授業と連携させて積極的に行った。その内容は下記の通りである。

(1)養護施設における社会福祉活動と造園活動のコラボレーション

(2)保育施設における造園活動の展開

(3)被災地における住民の環境保全活動協力

(4)希望者向けの高鍋キャンパスにおける造園技術向上メニュー

(5)都城市民活動との連携

3)自然環境系

(1)自然再生士補

昨年度、本学科が認定された財団法人日本緑化センター自然再生士補の資格は、学生の卒業後に資格認定されていたが、当該センターが提案した在学中に資格認定が可能となる制度変更について、学生のメリット(就職活動)になることも踏まえ変更に賛同したところ、そのように制度が変更され、その旨を学生に周知した。

(2)生物分類技能検定

生物分類技能検定は土壌医と同様に教育・研究・就職支援の一環としてその内容や受験について学生に情報提供を行った。

6. オフィスアワー

学生の学業や学生生活について、質問や相談に応じるための時間としてオフィスアワーを各教員が最低週一回カリキュラムとは別に設けている。原則として、オフィスアワー時間帯には教員が研究室に在室することとし、学生の指導にあたっている。

管理栄養学科

1. 全学的 FD 活動への積極的な参加

全学的 FD 活動である、各種事業に学科構成員がそれぞれ関係する事業へ参加した。それぞれの事業に参加することで、教育力向上などを目指すことができた。

2. 学科独自の委員会の設置

管理栄養学科では、全学的な委員会とは別に学科独自の委員会を設置し、活動を行ってきている。独自の委員会は、管理栄養士国家試験に関して対策の立案等を主な業務にする「国試対策委員会」、学生の就職支援等を主な業務にする「就職担当委員会」、高度な技能をもつ管理栄養士の養成ができるようカリキュラム

の検討等を主な業務にする「カリキュラム検討委員会」の 3 委員会がある。これらの委員会がそれぞれの業務を円滑に進めることにより、学生の国家試験の高合格率、学生の就職の高内定率、高度な技能をもつ管理栄養士の排出を実現している。

3. リメディアル教育の推進

管理栄養学科の推薦入学等で早期に合格した入学予定者を対象に学科独自のリメディアル教育を推進してきている。入学予定者のうち、文系、理系出身者問わず、高校「化学Ⅰ」および「生物Ⅰ」レベルの基礎的な課題 10 問ほどを出し、決められた期日までに提出させている。栄養学を学ぶにあたり、化学および生物は大変重要な基礎的科目であり、このような課題を出すことで、入学前の学力向上に努めてきている。

4. 基礎的科目（化学・生物）の支援

管理栄養学科では上記③の事業とは別に入学後の基礎的科目（化学・生物）の支援も学科独自で行ってきている。1 年次配当科目である「基礎化学実験」にて、高校の化学Ⅰおよび生物Ⅰに関する確認テストを実施し、当該科目が苦手な学生の抽出作業を行っている。当該科目が苦手な学生に対しては、個別に対応するなどして、学科の授業についていけるよう支援してきている。

5. 学科構成員全員で参画する管理栄養士国家試験対策

管理栄養学科の大きな教育の目標として、「管理栄養士国家試験の全員受験・全員合格」というものを掲げている。その大きな目標の実現に向け、学科構成員全員が学生たちの国家試験対策の支援を行ってきている。上記②の国試対策委員会が立案した国試対策方針を基に、教員は国試対策授業を行い、助教・助手は勉強会の実施などを行ってきている。これまでの組織的な取り組みの成果もあり、平成 23 年 5 月発表の国家試験の結果（5 期生）は 95.1％と全国でトップレベルの合格率を出した。即戦力のある高度な技能をもった管理栄養士の養成とともに、管理栄養士国家試験に勝てる人材をこれからも養成していく。

6. 学生の名前と顔を覚える事業

管理栄養学科では、新入生の入学式時に顔写真をとり、それをもとに顔写真と氏名の書かれた資料を作成し学科構成教員へ配布するようにしている。そうすることで、学生一人ひとりの名前と顔を覚えることができ、学生指導・支援の推進に役だっている。

食品健康学科

1. 入学前教育（リメディアル教育）の実施

来年度入学予定の新入生が、入学後に勉学をスムーズに開始できるようにしてもらうことを目標として、入学手続者を対象に、生物・化学・食品学の分野に関する課題に解答の後、提出してもらうリメディアル教育を学科全教員が取り組んで実施した。提出された解答については、学科教員がコメントを添えて各自に返却した。

2. カリキュラムの見直し

学科教育の根幹をなすカリキュラムの見直しは年間を通じて適宜行っている。特に、専門科目の配当年次や開講科目の検討については十分な時間をかけて行っている。食品開発科学科に名称が変更されたことを受け、今年度から食品開発関連の実習授業を増設するとともに、これまで選択科目であった複数の食品開発関連講義を必修に変更することで実学教育の強化を実施した。

3. 学年別ガイダンスの強化

各学年での大学生活や卒業後の職業生活への展望を明確に持たせるために、前期・後期の開始時に学年

別ガイダンスを実施した。これにより、各自で履修状況や資格取得などに関する意識付けを行うことを可能にし、より有意義な大学生活を送ることができるようになったものと考えられる。

4. 怠学者および成績不良者に対する緻密な指導

授業出欠管理の徹底と教員間における情報の共有により、問題を有する学生に対して、指導教員を中心にきめ細かな指導を実施している。

5. レポート作成支援の為の「レポート工房」を運営している

実験授業等で提出が必要なレポート作成に対して、「レポート工房」に設置したコンピューターを用いて、1 年次の食品基礎実験や食品生化学実験などの授業において、作図や表計算プログラムの効率的な使用方法を指導している。PC とプリンタの導入台数は毎年増加しており、学生の利便性も更に増し、使用頻度は着実に増加している。昨年度には化学構造式を描く際に有用なソフトウエア″ChemDraw″及び描画ソフトの″Illustrator″を導入し、今年度から実験レポートのレベル向上に一役買っている。この「レポート工房」の使用に当たっては学生の自主性を尊重しているが、使用時間帯を定めていること、使用簿に記録する等の一定の規則を決めて運用している。

6. 3 年前期からの研究室配属

早期に研究室へ配属させることにより、専攻生への手厚い指導・支援を可能にしている。また、研究室の 4 年生のアドバイスを得ながら、2 年間じっくりかけて高度な専門的知識・技術を習得できることも利点である。

7. 資格取得・就職支援の充実

食品開発科学科はフードスペシャリストと健康食品管理士の養成校認定を受けている。「応用食品学演習」においては、各種資格取得に繋がる教育を実施している。また、例年 11 月から 12 月にかけて実施される認定試験に向けて、後期授業の開始とともに受験希望者に対してカリキュラム時間外での補習授業を実施している。就職支援に関しては、3 年後期に「ｷｬﾘｱﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ」を 3 年生全員の出席を前提とした正課外授業として開講し、就職課と連携して学生のキャリア形成と就職支援を実施している。

8. 高校、自治体および企業との連携

昨年度に引き続き、宮崎農業高校との連携を積極的に行い、相互の教育に係る連携・交流を通して、学生の視野を広げ、教育の活性化を図っている。今年度からは、新たに日南振徳高校と協定を締結して焼酎関連の連携を開始した。自治体との連携では昨年度から西都市と本格的に連携し、学科の実習教育を通してオリジナル食品の開発を行っている。さらに、企業との連携に関しては、食品開発実習の授業時に、製パン職人、和菓子職人、洋菓子職人の方々を特別講師として招聘し、学生が食品加工の職人技術に触れる機会を与えた。

9. 宮崎県学校農業クラブ連盟大会のサポート

食品開発科学科への参加依頼に基づき、「宮崎県学校農業クラブ連盟大会」（日本学校農業クラブ連盟主催）のプロジェクト発表会及び農業鑑定競技会において食品開発科学科教員が出題・審査等を行った。

10. 各種地域イベントへの積極的な参加

地域における食品開発の学科としての存在感を高めるために、宮崎市主催の「健康ふくしまつり」などの地域イベントに参加した。

11. 学科主催卒業祝賀会の実施

卒業生の門出を学科教員で祝福することを趣旨とする学科主催の卒業祝賀会を卒業式の終了後に実施している。卒業生による思い出や感謝の気持ちを表明する機会となり、学科教員からのひとことや保護者代表

による挨拶および在学生代表からの贈る言葉など、卒業式の厳粛な雰囲気とは異なるアットホームな雰囲気で卒業生を送り出すイベントとして、学科では定着している。

12. 高等教育コンソーシアム宮崎への参加

高等教育コンソーシアム宮崎主催の平成 25 年度公募卒論発表会に参加して最優秀賞を受賞するなど、県下の大学間での学科の存在感を高めるのに尽力した。

子ども教育学科

1. 学科内 FD 研修会の実施

学科内FD研修会を 2013 年 12 月 9 日(月)14 時～16 時、子どもの学び研究所にて実施した。学科教員が参加した。

本年度の学科内 FD 研修では、2013 年度から特別支援学校教員養成がスタートしたことから、特別支援教育担当の 3 名の教員から話題提供してもらい、特別支援教育について教員相互の認識を深める機会とした。

ディスカッションを含めて 1 人持ち時間を 30 分～50 分程度とした。3 名の教員の話題提供のテーマと要旨は以下のとおりである。

<u>進 一鷹 教授</u>「重度・重複障がい児の指導法」

重度・重複障がい児の指導は、3 つのグループに分けて考えている。第1のグループは、発達の段階を追ってあお向けの姿勢から机座位で物を操作するまでをどのように指導していくかということである。障がいで言えば、脳性まひで不随意な運動が顕著な事例から同じように脳性まひと診断されてもどちらかと言えば低緊張な事例まで存在する。しかし、重度の知的な障がいを有しているということは共通している。しかし、彼らはその子なりの豊かな世界を持って外界と関わっているので、その点に注目すれば、十分効果のある指導を行うことができる。第 2 のグループは、顕著な不随意な運動があるために、話す、文字を書くなどの意図した運動を発現できないけれども、知的には正常と思われる子どもである。顕著な不随意な運動があるけれども、その中に一部随意に動かせる部位があるので、その部位を使ってパソコン、筆談、指談などの手段を活用し、意思の表出を図るなど指導が可能である。第 3 のグループは、ウエルドニッヒ・ホフマン病(脊髄の運動神経細胞の病変によって起こる進行性の疾患)など、知的には正常であるが、重度の運動障がいを有する子どもである。わずかに動かせる手首、指先、足先などを使ってパソコン、筆談、指談などの手段で意思表出を図る指導が可能である。

以上の観点から事例を紹介し、重度・重複障がい児の指導法についての研修を実施した。

<u>谷村 佳則 講師</u>「私の教育実践」

本学ホームページの教員紹介に掲載してある私個人の「プロフィール表」を基に、職歴とともに取り組んできた教育実践及び研究活動の内容について、時系列を通して報告を行った。特に、岩手県の特別支援学校教員となってからの特別支援教育研究の学びと恩師との出会い、研究領域と推進内容についての概要を中心に報告を行った。

<u>内田 芳夫 教授</u>「特別支援教育に関する授業科目と担当者紹介」

2013 年度入学生から、「特別支援学校教諭一種免許状(知的障害・肢体不自由・病弱)」の取得が可能となり、既に 18 名の学生が免許取得に挑戦している。常勤教員 3 名と、非常勤教員 4 名で、必要単位 26 単位、17 の授業科目(教育実習を含む)を担当する。卒業後、特別支援学校や特別支援学級の教員として、さらに、

通常学級に在籍の LD、ADHD 等の発達障害児に対して、きめ細やかな対応が可能な教員としての活躍の場が期待できる。

2. FD に関わる外部研修

1)保育士養成校としての保育士養成に関わる情報収集

①2013 年 9 月 7 日~8 日、鹿児島女子短期大学で開催された第 44 回九州保育団体合同研究集会鹿児島集会に本学科教員 4 名(内田芳夫教授、磯部美良講師、春日由美准教授、黒川久美教授)が参加した。集会参加者は、九州全域から集った保育者、保護者、研究者、医療関係者、学校教師、学生等、計 1,137 名であった。本学 4 名の教員は分科会運営委員の役割を担い、分科会における実践討議を深めることに貢献した。本学科教員にとっては、保育現場の諸課題を把握するいい機会であるとともに、学生への指導に生かせる様々な情報も得ることができる場である。なお、本学科学生も 2 名が集会に参加し、貴重な学びの機会となった。

②平成 24 年 9 月 8 日~9 日　第 43 回九州保育団体合同研究集会宮崎集会への参加(澁澤透、内田芳夫、磯部美良、黒川久美、神田嘉延、大崎裕子)

本学都城キャンパスで開催された九州保育団体合同研究集会宮崎集会に、6 名の教員が参加した。集会の実行委員長(澁澤)、分科会運営委員(内田、磯部、黒川)も担い、集会の成功に貢献した。本集会は毎年 1 回、九州各地から保育者、保護者、研究者等が集い、保育・子育てに関する講演・講座での学びとともに、実践提案をもとに討議し研究を深める集会であり、今集会には 915 名の参加者があった。本学科教員にとって、保育現場の諸課題を把握するいい機会であるとともに、学生への指導に生かせる様々な情報も得ることができる場である。なお、本学科学生 10 数名がボランティアとして集会運営や子どもの保育にあたり、学生にとっても貴重な学びの機会となった。

③2013 年 9 月 14 日～15 日、全国大学音楽教育学会九州地区学会第 29 回研究学会が、本学都城キャンパスにて開催され、子ども教育学科早川純子講師が大会実行委員長を務めた。九州地区会員による研究発表に加え、弘田昌子氏(本学課外講座「夢かな」の講師)等によるパネルシアターの実演を交えた記念講演が行われた。2 日目には、「音楽とコミュニケーション能力――学生の表現力を伸ばす」という大会テーマに基づいて、参加者全員による研究討議がなされた。保育者養成の抱える今日的課題が浮き彫りになったとともに、課題解決に役立つ実践報告が数多く出され、有意義な意見交換の場となった。

2)教員養成系学部としての教員養成にかかわる情報収集

2014 年 3 月 1 日～2 日、福井大学で開催された「省察するコミュニティーラウンドテーブル 2014」に、宮内孝教授、趙雪梅講師の 2 教員が参加し、本学部の教育実習の概要と成果の発表を行った。本研究会には、500 名を超す参加者があり、活発な研究協議が行われた。本学の教育実習方式は、多くの参加者の興味を引くものであった。多くの質疑、意見交換がなされた。この質疑を通して、本学の教育実習方式は、教師としての実践力を培う教育実習として高い評価を得ていることがうかがえた。

3. 「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」の活動について

学部附属の「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」では、現場教師との共同研究や、地域の親子への子育て支援活動、更に学生も参加しての研究活動などそれぞれにおいて柱となる活動が展開されている。2013 年度の活動内容の詳細は『南九州大学人間発達研究』第 4 巻に報告されているが、どの活動も大学教員としての教育力量を向上させることに、直接的、間接的に貢献するものである。

4. 学生への支援について

①担任制による学生への目配りと支援
1・2・3・4 年生混合グループを編成してホームを作り、各教員がホーム担任となって、学生への相談・助言・ケア等を行っている。
②履修計画に関するきめ細かい指導
保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許の 3 資格免許、2013 年度入学生からは特別支援学校教諭免許を加えた資格免許をどういう組み合わせでどう取得するかについての履修計画づくりへの指導・支援を、特に 1・2 年生段階で丁寧に実施している。
③キャリア教育としての課外授業「夢を叶える塾」
課外授業として、小学校・幼稚園・保育園の先生として必要な資質・能力を高めることを目的に、1 年生対象の「夢を叶える塾Ⅰ」、2・3 年生対象の「夢を叶える塾Ⅱ」を通年で毎週開催している。「夢かなⅠ」では県内外で活躍されている方による「講話」等、「夢かなⅡ」では小学校志望者には採用試験対策講座、保育者志望者には手遊びや手作り人形、パネルシアター・ペープサートによる劇づくり等を行っている。学年末にはパネルシアターやペープサート劇の発表会を「夢かな劇場」として開催した。また 6 月には二本松はじめさんを招いて「つながりあそび・うた」のワークショップを全学年参加のもと実施した。
④3・4 年生の教育・保育実習の指導・支援
小学校・幼稚園の教育実習、保育所・児童施設の保育実習に 3 年生・4 年生を送りだした。小学校教育実習では、周到な事前指導が実施され、実習校からは実習生への高い評価を得ている。学生たちは実習を通して大きな達成感を得ることができ、大学での授業に向かう姿勢等に良好な変化がみられている。
⑤学科教員全体での学生に関する情報の共有と支援
学科会議において、「気になる」学生に関しての情報交換・共有に努め、教員全体で支援を行っている。なお、「学生支援連絡会」において、学生部教員を含む複数の教員、保健室、学生相談室、学生支援課で気がかりな学生についての情報交換会を行っている。ここでの学科教員全体で共有した方がよい情報については、その後、学科会議で共有し、学生支援に役立てている。

教養・教職センター

センター会議または FD 話し合いの時間に授業評価アンケート結果、教授法、講義の取り組みや学生とのやりとりなどを話し合っている。主に授業実施アンケート結果が届いた後、その結果を叩き台にして話し合う。

9. 新たな取り組み

平成 25 年度 FD 活動では、平成 23 年度の活動から課題に挙がっていた「FD 活動の情報公開」について、検討を行ってきた。具体的には、「平成 25 年度に大学ホームページを利用した情報公開開始」という目標を立てて検討を行ってきた。
次年度の大学のホームページを利用した情報公開の方法の検討結果について以下に示す。

南九州大学 FD 活動の情報公開の方法

目的

近年、大学における FD 活動は各大学で活発化してきており、多くの大学で FD 活動の内容を大学のホームページ上などに掲載し、情報公開している。本学においても、積極的に行ってきている FD 活動の一部を大学ホームページ上に広く公開し、多くのステークホルダーに閲覧いただく機会をつくる。
＜公開のメリット＞

- 本学の教育研究活動の活発さがステークホルダーに発信できる
- 本学の教育研究活動の信頼度が増す 等

情報公開開始年度

平成 25 年度から開始する
（まずは平成 24 年度の活動の内容を公開し、平成 25 年度分の内容も順次公開していく）

情報公開の内容

- FD 活動報告書を掲載することで対応する
- 基本的にはすべてを掲載する

掲載するのに不適切な部分の検索方法

① 作成者がまずは作成しながら判定する
② 委員会にて報告書をチェックし判定する
③ 掲載が不適切な部分があった場合は、削除した内容のものをホームページ上にアップする

情報公開の方法

- 大学ホームページ上での公開とする
- FD 活動専用のページを作り、そのページ上での公開とする

予算

- 上記のように FD 活動専用のページを設けると別途予算が必要となる。
- 予算は、年度末にある予算立案・事業計画立案時に計上する。（予算計上し、予算が採択されない場合は、ホームページ上の「新着情報」にてアップすることで対応する。）

10.FD 活動の反省と今後の活動

ここでは、平成 25 年度に取り組んだ FD 活動の反省と今後の活動について記述する。本学の FD 活動は、全学的な取り組みと、各学科・教職教養センター単位での独自の取り組みがある。それぞれⅠ全学的な取り組み。Ⅱ各学科・教職教養センター別に分けて以下に反省と今後の活動について示す。

全学的な反省と今後の活動

授業評価アンケートに関して

当該事業は、本格的に実施されて本年度で5年目であった。以前、課題として挙がっていた「アンケートの回収などで職員の負担」については、アンケートの回収方法改善などを検討し、特に都城キャンパスについては、アンケート実施関連部署である学生支援課以外の部署のスタッフの協力を得ることで負担を軽減した。もう一点課題に挙がっていた「アンケートの対象を全授業とする」という課題は解決にはいたらなかった。次年度以降は、全授業を対象とする必要性の検討も含めて検討していかなくてはならない。また、授業評価アンケートによる授業内容の向上、学生の満足度の向上についての効果の検証と、授業評価アンケートの内容、方法の見直し等についても検討が望まれる。

参観授業に関して

当該事業も本格的に実施されて本年度で 5 年目を迎えた。これまで本事業の大きな課題である「参加率」の低さ」について本年度は、さらに参加促進を進めるべく、教授会での十分な呼びかけ、そして各学科のFD推進委員による学科会議等での十分な呼びかけ、さらには開講期間の延長を図る等、参加促進に力を注いだ。しかし結果としては、学科によって(±)7名程度の変動が生じたが全体的には相殺する形となり大きな効果を得ることができなかった。次年度以降は参加促進の方法の検討のみならず、実施方法の見直しも含めて検討が必要となると考える。

FD 講演会に関して

本事業も上記 2 事業と同様に本年度で 5 年目を迎えての実施であった。本年度は例年に比べ 10 名以上参加数が増加した。また参加者からも「内容に満足している」「具体的な事例に基づいていて理解できる」等と高評価をいただいている。開催時期についても、学生の夏季休暇中を利用しての実施であり、参加しやすい時期を設定できていると思われる。今後は、南九州学園の教職員にとって、高い関心、リアルなニーズをとらえ、その内容の沿った講演の企画をできるようにしていきたい。

全体的な反省と今後の活動

大学における FD 活動は、大学教員の教育活動にとどまらず、研究活動や社会貢献、大学内の管理運営を含む広範な教員の活動の資質向上を目的に各大学で実施されてきている。南九州大学のFD活動は、平成 25 年度で委員会創設 5 年目を迎え、その活動内容も充実してきている。平成 22 年ごろからは、教育活動を重点に置いた活動が中心となってきており、①授業評価アンケートの実施、②参観授業の実施、③FD 講演会の実施、④学科独自の FD 活動など様々な取り組みを行ってきている。平成 24 年度には新規事業である⑤新入生魅力度調査・卒業生満足度調査を始めたところであり、年度を重ねるごとにその活動は充実してき

ている。また、今年度からは⑥本学に興味をもつ受験生およびその家族などのステークホルダーに対し、本学の FD 活動について知ってもらうことを目的に、本学が行ってきた FD 活動の内容を本学のホームページ上に公開した。本事業は平成 24 年度より本事業の方向性を検討し、平成 25 年度は予算を承認していただき、公開を実施した。今後も継続していくことにより、本学のブランドイメージ向上などを実現させたい。さらに、⑦FD 活動事業の PDCA サイクルのシステムの構築の検討を始めたところであり、年度を重ねるごとにその活動は充実してきている。
本学で FD 活動を本格的にスタートさせて以来、まずはシステムづくりに重点をおいて取り組んできたが、この 5 年間でほぼシステムは構築されたといえよう。そこで平成 26 年度は、上記⑦をふまえ、これまで構築してきた FD 推進システムのフレームと、諸活動をモニタリングし、その内容・質のさらなる向上をテーマにしていきたいと考える。すなわち【"セカンド・ステップ"～FD 実践システムの強化とさらなる深化を目指して～】を実施する年度と位置付け、活動をさらに活発化させる。FD 活動事業を安易に継続するだけでなく、PDCA サイクルを実施した内容を丁寧にモニタリングし、次の計画へフィードバックし、さらに充実した FD 活動へと発展させていくために検討していかなければならないと考えられる。

学科・センター別の反省と今後の活動

環境園芸学科

新入生魅力度調査では学生の生活環境、サークル活動を行う上での環境について十分な魅力を得ていないとの結果が得られた。これらは全学的な問題であり、関係部署と連携をしながら対応を考えなければならない。また、新入生の中には就職支援活動や学科の担任制などについて知らないものもかなりいることから、これらについてはオリエンテーションや掲示等での周知をより徹底する必要があると考えられる。
今回の調査は同一学生による結果ではないが、卒業生満足度調査と新入生魅力度調査を比較すると、本学の理念、実学教育と少人数教育について卒業生満足度が低下している。また、学生の専門科目に対する高い関心が認められるが、一方で教養教育科目に対する魅力度・満足度が低いことが示されている。学生への教養科目の重要性の理解や教養科目の在り方、教養と専門のバランス（専門の特化も含め）などについて検討が課題として考えられる。
これらの結果は大学としての根幹に関わることであり、大学あるいは学科として早急な結果の分析とその対応が必要である。
授業評価アンケートの結果からは、顕著な値の変化は見られなかったが、前期と比較して後期のポイントの低下が全項目で認められた。この原因はわからないが、教員側として改善の努力を惜しまず継続する必要がある。
参観授業については、開催数は3授業、参加者各4名であった。これまで参観授業の参加者からは有意義な刺激を受けたとの印象が伝えられているのにもかかわらず、前回同様に貴重な FD の機会が活かされていない。参加の促すため参観授業の開催数の増加、あるいは以前行われていた参観義務化なども踏まえた方策が不可欠である。
学科独自に取り組んだ FD 活動については、前年度から継続する活動や企画を繰り返したものが多い. これらの活動が形骸化しないよう、FD 活動の意義について各教員個人が、また学科として再認識する必要があり、さらには独自の新しい活動や企画を積極的に考案、実施し、FD 活動を推進させる取り組みが重要であると

考えられる。

管理栄養学科

例年課題に挙がっているが、管理栄養学科の独自のFD活動は主に「教育」に関連する活動が充実してきているがそれ以外の活動があまり充実していない。南九州大学FD推進委員会規定にも書かれている通り、FD活動は、教育活動に関することに限らず、研究活動、社会貢献、管理運営に関することも必要である。管理栄養学科においても、教育活動に関するFD活動だけでなく、研究活動などのFD活動も取り入れていくことが必要である。管理栄養学科では、近いうちに厚生労働省（関東厚生局）による監査が予想されている。管理栄養士養成課程で専門基礎科目および専門科目を教授する教員の研究歴が少なければ（毎年一定の研究業績があるかが問われる（過去にたくさんの業績あるのではなく、継続的に研究を行っているかが問われる））、管理栄養士養成施設の専任教員として認められない可能性がある。厚生労働省（関東厚生局）による監査を乗り切るために、各教員の研究推進を組織的に行っていかなくてはならない。その取り組みとして、研究推進の仕組み・方法について次年度以降学科でしっかり考えてまいりたい。

食品健康学科

(1)今年度の反省

今年度の前期・後期の授業評価アンケートの分析結果として、授業実施方法に関しては概ね良好であったが、学生の取り組みに関しては、昨年度同様に平均値が低い項目があった。参観授業に関しては、学科内で参観を促す機会が設けられたにも関わらず、依然として参加者が少ない結果となった。教員のための参観授業の意義を深く議論した上で内容を再検討する必要がある。学科独自のFD活動に関しては、今年度から新たに導入された活動も含め、昨年度に引き続き学生の教育・研究内容の向上に繋がる各種活動を実施することができた。

(2)次年度以降のFD活動

授業に関しては、学生がより自主的・積極的に取り組むことに繋がる授業、双方向型の授業を実施するための具体的な方策を立て、実行していくことが必要であると考え、今後も継続していく。専門教育関連では、食品開発に関する専門知識を実践的により深く学ぶことができるように、引き続き教育体制の整備を実施していく。具体的には、学生の専門知識・技術の習得に繋がる食品開発実習教育及び醸造実習教育関連の設備の充実をさらに進めていくことにより、実学教育を一段と強化していく。また、地域社会との連携活動を今まで以上に強化して、学生の教育・研究の充実に繋がる産官学の連携を今まで以上に深めていく。県内実業系高校との連携では、26 年度も引き続き宮崎農業高校及び日南振徳高校と連携活動を実施するが、これまで以上に学生がより積極的に参加できる活動を増やしていく。

子ども教育学科

今年度は、学科の完成年度で 1～4 年生まで全学年がそろい、学生数が増えた。また特別支援学校教諭免許状の取得が可能となり、特別支援教育の教員を新たに迎え入れることもできた。4 学年にわたる授業やゼミ、実習指導等の教育活動、学生数の増加に伴う学生支援活動の増大等により、これまで以上に多忙さを実感する 1 年間であったが、各教員の創意工夫と相互の協力のもと、教育・学生支援に取り組むことができた。次

年度以降、学生数のさらなる増加が見込まれる中、教育・指導力、学生支援力を更に磨いていくことが求められる。今後の課題としては、第 1 に、新たな教員を迎え入れるなど教員体制にも若干の変化がある中、教員相互の研究や教育について相互理解が深まるようにFD活動の時間の確保に努めていきたい。第2に、学科開設 5 年目になる次年度は、これまでの成果と課題を改めて総括し、カリキュラムの改善等を検討していきたい。第 3 に、特別支援教育に関わる教育実習も加わっていく中、教育・保育実習についての本学科としての基本的な考え方を共有する機会を設けることや、教育・保育実習を環とした、教員間＝教科間のつながりを追求していくことができればと考える。

教養・教職センター

これまでのセンター内の活動をさらに発展させていくために、今後はセンター内で FD に関する検討の回数を増やすことを重視していく（毎月あるいは、2 ヶ月に 1 回ごとに集まることを目指す）。当該検討会では全学的事業である参観授業の参加率を増やすために日程をどうするのか、授業評価アンケートで検討課題になっている「教養科目の必要性」、「教養科目の価値」をどう訴えていくのかを中心に検討していく。